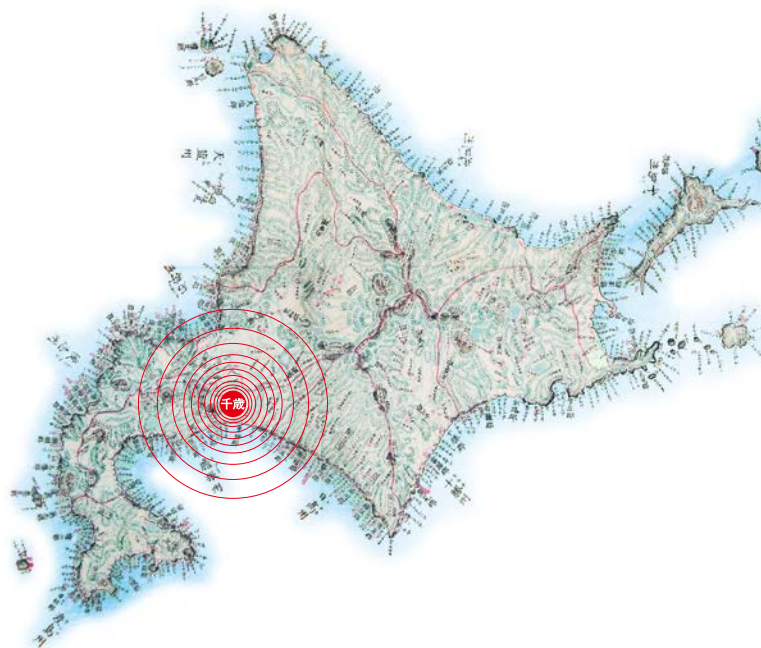


中級

アイヌ語

千歳

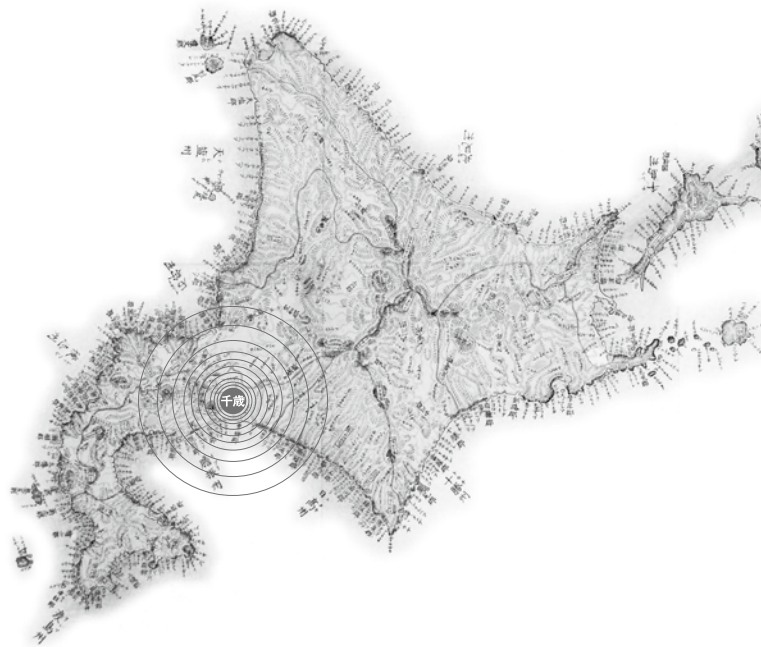


財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

中級

アイヌ語

千歳



財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

はじめに

この本は、アイヌ語の初歩を学んだ人が、文法的に少し踏み込んだ内容を学ぶための教科書として作りました。ただし、この本から学習を始めたとしても問題の無いように、なるべく平易な説明をこころがけました。

文法の学習にくわえ、「なぞなぞ」や「となえごと」などの伝統的な言葉あそびや、よく知られた童謡のアイヌ語訳を掲載して、楽しみながら単語や文章を身につけられるようにしています。

本文に掲載した例文は、実際にアイヌ語の語り手が話したものも一部にありますが、大部分は新しく作ったものです。各ページで説明したい内容を盛り込むために、短く単純な言いまわしにしてあります。

アイヌ語の発音は日本語と異なるところがあり、特に難しい所は、お手本となる音声を聞きながら学習することが欠かせません。この本を教室等で利用するほか、家庭でも利用できるように例文や単語、言葉あそび、歌などを発音した音声資料をつくりました。収録に協力してくださったのは、ふだんは日本語で生活し、アイヌ語は学習によって身につけた人々です。一般に言葉を学ぶときには、生まれつきその言葉を使っている人から教わるのがよいとされており、これはアイヌ語においても同じことがいえます。しかし、家庭のなかでアイヌ語の音に触れる機会が少ない中で、最初の手がかりになればという考えから音声資料を作成しました。

この本を通じてアイヌ語に関心を持たれた方は、これまでに出版されたより専門的な解説書や視聴覚教材を通じて、自然なアイヌ語の文に触れることをおすすめします。巻末に、この本を作る上で参考にした本をまとめていますので、そちらも参照してください。

【執筆・編集担当（五十音順）】

北原次郎太、楠本克子、高橋規、高橋靖以、八谷麻衣

【音声収録（五十音順）】

小笠原小夜、加納ルミ子、川村このみ、木村君由美、豊川容子、八谷麻衣、村上恵、山本りえ

この本を作る過程で多くの方にご指導を頂きました。記してお礼申し上げます。

凡例

- ・アイヌ語の表記は『アコロイタク』(北海道ウタリ協会 1994)に概ね準じた。例文は全てカタカナ・ローマ字の併記とした。解説中に同じ単語が繰り返し出てくる場合は必要に応じてローマ字を併記し、他はカタカナのみとした。なお、カタカナは音声の連続や変化を反映させて、実際に発音される音声を理解しやすいように、ローマ字は辞書検索がしやすいように個々の語を境界ごとに区切って示した。
- ・例文を作る際、アイヌ語として一般によく知られた言葉でも方言によっては該当する語彙が確認できないことがあった。その場合はやむを得ず他方言を参照して想定される語を用いるか、造語で対処し、斜体で示した。
- ・例文に地名を使用した箇所がある。アイヌ語地名には、1つの地名について語源の解釈とそこから想定される形が複数あることが少なくない。このため、例文中では現行の漢字による地名表記をそのまま用いた。その他、海外の地名、日本語の語彙についても同様に、日本社会で一般に用いられている形をそのまま用いた。
- ・アクセントを説明する際、アクセント位置を で示した。
- ・各課の例文で、その課の学習項目に該当する箇所は太字・下線で示した。
- ・例文のほか、口承文学や学習用に考案した歌を掲載している。これらについては千歳方言に限定せず、様々な方言を取りまぜて構成した。
- ・例文に逐語訳をつける代わりに、『ちとせのアイヌご』、『初級 アイヌ語 一千歳一』をふくめた全出現語彙の訳、品詞を表示したリストを作成し、本書巻末に掲載した。

中級 アイヌ語テキスト 千歳方言 目次

はじめに	3
凡例	5
音節表	8
① 教室で使えるアイヌ語～先生がくる前に～	10
② 発音と表記の復習	12
③ 発音と表記の復習 2	14
④ 音が替わる、音がつながる	16
⑤ 単語を覚えよう 1	18
⑥ 言葉あそびを覚えよう 1 美幌地方のなぞなぞ	19
⑦ アクセント	20
⑧ 単語を覚えよう 2	22
⑨ 言葉あそびで覚えよう 2 十勝地方のとなえごと	23
⑩ 「～しない」否定文	24
⑪ 「～ができない」「～がわからない」否定動詞による否定文	26
⑫ ルウエ・シリ・ハウエ 形式名詞の使い分け	28
⑬ 単語を覚えよう 3	30
⑭ 言葉あそびで覚えよう 3 美幌地方の言葉あそび	31
⑮ 「私は～」「君は～」1人称・2人称単数主格	32
⑯ 「私たちは～」「君たちは～」1人称・2人称複数主格	34
⑰ 「いっしょに～する」包括的 1 人称複数主格	36
⑱ 「私に～」「君に～」1人称・2人称目的格	38
⑲ 単語を覚えよう 4	40
⑳ 言葉あそびで覚えよう 4 人称接辞の歌	41
㉑ 「私が君に～」「君が私に～」人称の組み合わせ	42
㉒ 「私も」「君も」を強調する人称代名詞	44
㉓ 「～なさいましたか?」「～なさって下さい」尊敬の表現	46

24	「きれいに」「ゆっくり」「みじかく」副詞	48
25	単語を覚えよう 5	50
26	言葉あそびで覚えよう 5 美幌地方のなぞなぞ	51
27	人称接辞のまとめ	52
28	「あの」「この」「2つの」「3つの」いろいろな連体詞	54
29	「～しなさい」「～するな」命令・禁止	56
30	「大勢で～する」自動詞の単数・複数	58
31	「たくさん～する」他動詞の単数・複数	60
32	「～して」「～しながら」接続助詞 1	62
33	「～なので」「～したら」「～しても」接続助詞 2	64
34	「～まで」「～のように」「～なほど」接続助詞 3	66
35	「～に行く」場所の表現 1	68
36	「～に行く」場所の表現 2	70
37	「～の上を」「～の中に」場所に関わる動詞	72
38	「私のおじいさん」「私のおばあさん」親族名称	74
39	いろいろな動詞 自動詞・他動詞・複他動詞	76
40	「～へ」「～から」「～でもって」いろいろな格助詞	78
41	「～も」「～だけ」いろいろな副助詞	80
42	「～かい?」「～だよ」文の終わりにつく言葉	82
43	「～した」「～しすぎた」いろいろな助動詞	84
	単語リスト	87

アイヌ語(北海道方言)の音節の一覧

【母音】

ア	イ	ウ	エ	オ
---	---	---	---	---

【子音+母音】

カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ		トウ	テ	ト
チャ	チ	チュ	チエ	チヨ
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
パ	ピ	プ	ペ	ポ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ		ユル	イエ	ヨ
ラ	リ		レ	ロ
ワ	ウイ		UE	ウオ

【母音+子音】

アク	イク	ウク	エク	オク
アシ	イシ	ウシ	エシ	オシ
アツ	イツ	ウツ	エツ	オツ
アン	イン	ウン	エン	オン
アプ	イプ	ウプ	エプ	オプ
アム	イム	ウム	エム	オム
アイ		ウイ	エイ	オイ
アラ	イリ	ウル	エレ	オロ
アウ	イウ		エウ	オウ

【子音(例としてカ行の音) + 母音+子音】

カク	キク	クク	ケク	コク
カシ	キシ	クシ	ケシ	コシ
カッ	キッ	クッ	ケッ	コッ
カン	キン	クン	ケン	コン
カプ	キプ	クプ	ケプ	コプ
カム	キム	クム	ケム	コム
カイ		クイ	ケイ	コイ
カラ	キリ	クル	ケレ	コロ
カウ	キウ		ケウ	コウ

アイヌ語(北海道方言)の音節の一覧

【母音】

a	i	u	e	o
---	---	---	---	---

【子音+母音】

ka	ki	ku	ke	ko
sa	si	su	se	so
ta		tu	te	to
ca	ci	cu	ce	co
na	ni	nu	ne	no
ha	hi	hu	he	ho
pa	pi	pu	pe	po
ma	mi	mu	me	mo
ya	yi	yu	ye	yo
ra	ri	ru	re	ro
wa	wi	wu	we	wo

【母音+子音】

ak	ik	uk	ek	ok
as	is	us	es	os
at	it	ut	et	ot
an	in	un	en	on
ap	ip	up	ep	op
am	im	um	em	om
ay		uy	ey	oy
ar	ir	ur	er	or
aw	iw		ew	ow

【子音(例としてK) +母音+子音】

kak	kik	kuk	kek	kok
kas	kis	kus	kes	kos
kat	kit	kut	ket	kot
kan	kin	kun	ken	kon
kap	kip	kup	kep	kop
kam	kim	kum	kem	kom
kay		kuy	key	koy
kar	kir	kur	ker	kor
kaw	kiw		kew	kow

ステップ1 教室で使えるアイヌ語～先生がくる前に～

☆アイヌ語の表現をまるごと覚えて、使ってみましょう。

1. 先生 ナ エク カ ソモ キル ウェ ネ。

先生 na ek ka somo ki ruwe ne.

先生はまだ来ていません。

2. ナ オヌマンイペケカソモキクス、クイペルスイフミ。

na onumanipe k=e ka somo ki kusu, ku=iperusuy humi.

まだ晩ごはんを食べてないから、お腹がすいたなあ。

3. チョコレート クコンルウェネ。

チョコレート ku=kor ruwe ne.

私はチョコレートを持ってるんだ。

4. シネパウネレヤン。

sinep un=ere yan.

ひとつ私たちにちょうだい。

5. ピリカワ。エヤン。

pirka wa. e yan.

いいよ。食べな。

6. イヤイライケレ (男性) / ハフ (女性)。エンコレプケラアンワ。

iyayraykere / hap. en=kore p keraan wa.

ありがと。君がくれたやつ、おいしいよ。

7. 先生 エクノイネフマシワ。

先生 ek noyne humas wa.

先生が来たみたいだよ。

8. ホクレ ホクレ。先生 エクエトコタアエロ。

hokure hokure. 先生 ek etoko ta a=e ro.

さあ、はやく。先生が来る前に食べよう。

☆「ごはんを食べていないからお腹がすく」という理由を表す表現や、「君がくれた」のような誰が誰にといった表現は、この中級編で詳しく学びます。

ステップ2 発音と表記の復習

アイヌ語の音

アイヌ語の音は5つの母音 (a, i, u, e, o) と11の子音 (c, h, k, m, n, p, r, s, t, w, y) の組み合わせでできています。これらの音を表記するにはカタカナまたはローマ字を使います。

音の組合せ

音の組み合わせには、アイヌ語としての決まりがあります。一番基本的な組み合わせ方として次の4つがあります。アイヌ語話者が、言葉をゆっくり区切って言うと、自然にこの組み合わせの単位で切れます。

①母音	②子音+母音	③母音+子音	④子音+母音+子音
例： a	sa	ak	sak
「座る」	「姉」	「弟」	「夏」

このような音の組合せの単位を「音節」と呼びます。①②のように母音で終わるものを「開音節」、③④のように子音で終わるものを「閉音節」と呼びます。日本語はほとんどが開音節で構成されていて、ひらがなやカタカナも、開音節を書き表すように作られています。ですから、閉音節を書き表すには、ローマ字を使ったり、カタカナを工夫して使う方法が試みられてきました。

表記法

音節のタイプ別に表記法を見ていきます。

①「母音」は日本語の五十音のア行で書き表します。

☆母音は日本語とほとんど同じですが、ウの発音は少し唇を丸め、舌を奥に引いた状態で発音します。オに近い音で、しばしば聞きわけが難しくなります。地域や個人によっても多少発音がかわります。

② 「子音+母音」は日本語の五十音と同じように書き表します。ただし、次の点では少し違います。

☆カ行、タ行、パ行は、有声音（濁音）で読んでもかまいません。したがって、この本ではガ行、ダ行、バ行は使っていません。どちらかと言えば、単語のはじまりは無声音（清音）になりやすく、単語の中、とくに n や m の後に有声音になりやすいという傾向があります。

☆サ行はシャ行で読んでもかまいません。たとえば「スサム（ししゃも）」と書いて「シュシャム」と読んでもかまいません。この本では「イシャ（医者）」は「イサ」と書いています。シのローマ字表記は「si」です。

☆タ行は「タ・ー・トゥ・テ・ト」です。「テイ」の音はアイヌ語では使いません。「ツ」は使わず、かわりに「トゥ」を使います。

☆チャ行のローマ字表記は ca、ci、cu、ce、co です。

☆ヤ行は「ヤ・ユ・イエ・ヨ」です。イエは、口をイの形にして、エを発音するような音です。「イエン」のイエのように一息に言います。

☆ワ行は「ワ、ウイ、ウエ、ウオ」です。ウエは「ウエブ」のウエ、ウオは「ウォン」のウォのように発音します。

ステップ3 発音と表記の復習2

閉音節（ステップ2の③「母音+子音」、④「子音+母音+子音」）の末尾の子音は、ローマ字では h、k、m、n、p、r、s、t、w、y の各1字のみで書きます。c は、母音の後ろには現れません。h が現れるのは樺太の言葉だけで、北海道では使いません。

カタカナでは小文字で表示します。

☆ k、m、p、s、t は小文字のク、ム、プ、シ、ッで書きます。

サク	サム※	サプ	サシ	サッ
sak	sam	sap	sas	sat
「夏」	「～のそば」	「～が下りる（複）」	「コンブ」	「～が乾く」

※ m の後に p が続くときは「ン」で書きます。

フムペ	→	フンペ	サムペ	→	サンペ
humpe			sampe		
「クジラ」			「心臓、心」		

このように「ン」で書いたとしても自然に m の音で発音されますし「ム」を使うとかえって不自然な発音になりやすいので、特別なルールを適用しています。

☆ h と r は、前の母音と対応するハ行、ラ行の小文字で書きます。

サハ	シヒ※	スフ	セヘ	ソホ
sah	sih	suh	seh	soh
「夏」	「目」	「茎」	「ベッド」	「セイウチ」

※ h は、ただ息を吐くだけの音です。前の母音を発音した口の形に影響されて同じ段のハ行音に近く聞こえます。ただし、i の後では s に近くなります。例えばシヒ (sih) はシシ (sis) に近く発音されます。

カラ	キリ	クル	ケレ	コロ
kar	kir	kur	ker	kor
「～が～を作る」	「髓」	「影」	「靴」	「～が～を持つ」

r の音は、アクセントをおかず、軽く舌先ではじくような発音です。前の母音が響いて、同じ段のラ行音に近く聞こえます。

☆ n、w、y は子音ですが、カタカナは大文字のまま表記します。

ラン	マウ	プイ
ran	maw	puy
「～が下りる」	「ハマナス」	「エゾノリュウキンカ」

この方法では、i や u の音との書き分けができません。このため、本書では採用していませんが w や y にあたる部分を小文字で表記する立場もあります。

マウ	プイ
maw	puy

☆子音の連続「- kk -、- tk -、- pp -、- ss -、- tp -、- tt -」は「ッ」で書きます。

ワッカ	ウッカ	チカッポ	アッサプ	アッパケ	トッタ
wakka	utka	cikappo	assap	atpake	totta
「水」	「浅瀬」	「小鳥」	「櫂」	「最初」	「大袋」

カタカナでは「ッ」ですが、ローマ字の表記を見ると全て違う音であることがわかります。同じような事は日本語の「しょっき(食器)」「かっぱ(河童)」「ぶっし(仏師)」などにも言えますが、日本語の習慣ではこういう音をすべて小さい「っ」で済ませてしまいますし、この本のアイヌ語表記もこれと同様にしています。

なお、音の違いをきちんと表現するという立場もあり、それに従うと上記の単語はこのように表記されています。

ワッカ	ウトカ	チカッポ	アッサプ	アッパケ	トッタ
wakka	utka	cikappo	assap	atpake	totta

ステップ4 音が替わる、音がつながる

アイヌ語では、ひとつの単語の後ろの音と、次の単語の最初の音がつながった時に、音が替わることがあります。これは、口の動かし方の関係により自然に起こる変化で、意味は変わりません。ゆっくり言えば変化しないこともあります。

(例) mokor (眠る) + rusuy (～したい)
⇒モコンルスイ mokon rusuy (眠りたい)

kor (～の) + totto (母親)
⇒コットット kot totto (～の母親)

nankor (～だろう) + na (よ)
⇒ナンコンナ nankon na (～だろうよ)

san (下る) + wa (～て)
⇒サンマ san ma (下って)

isam (無い) + wa (～て)
⇒イサムマ isam ma

pon (小さい) + seta (イヌ)
⇒ポイセタ poy seta

このような音の交替はいろいろな場面で見られ方言による差もありますので、ひとつずつ事例を覚えていきましょう。

この本では、音が交替するときは、ローマ字で交替するまえのかたち（元の単語のかたち）を、カタカナで交替した後のかたち（変化して話されたかたち）で表記します。

クモコンルスイナ。

ku=mokor rusuy na.

私は眠たい。

閉音節の単語（子音で終わる単語）の後に、母音で始まる単語がくると、続けて発音されることがあります。

(例) チブ cip 舟 オロ or ～のところ ウン un ～へ

⇒チボルン (cip or un) 舟へ

サプ sap 下る アン an 私たちが アクス akusu ～して

⇒サパナクス (sap=an akusu) 私たちが下って

この本では、音が続けて発音される時も、音が交替するときと同じように、ローマ字では交替するまえのかたち（元の単語のかたち）を、カタカナでは交替した後のかたち（変化して話されたかたち）で表記します。

(例) アイヌイタカニイタカンロ。

aynuitak ani itak=an ro.

アイヌ語で話そう。

ステップ5 単語を覚えよう1

- | | | | |
|----|------|--------|-----------|
| 1 | コロ | kor | 「～が～を持つ」 |
| 2 | ヌカラ | nukar | 「～が～を見る」 |
| 3 | ヌ | nu | 「～が～を聞く」 |
| 4 | エ | e | 「～が～を食べる」 |
| 5 | ク | ku | 「～が～を飲む」 |
| 6 | ミ | mi | 「～が～を着る」 |
| 7 | マカ | maka | 「～が～を開ける」 |
| 8 | セシケ | seske | 「～が～を閉める」 |
| 9 | アフンケ | ahunke | 「～が～を入れる」 |
| 10 | アシンケ | asinke | 「～が～を出す」 |

ステップ6 言葉あそびを覚えよう1

美幌地方のなぞなぞ

- ① チセ オウカラリ ウノシパフネフネヤ?

cise oukarari unospa p nep ne ya?

家のまわりでお互いを追いかけるものは何ですか?

☆ヒント 家をぐるっとめぐるように立っている姿が追いかけてっこをしている様子に例えられています。

答えは 86 ページ

- ② オマナ オマナ アイネ ニトモシマフネフネヤ?

oman a oman a ayne ni tom osma p nep ne ya?

山に行って木にぶつかるものは何ですか?

☆ヒント 山で使う道具です。木にぶつけて使うものといえば…。

答えは 86 ページ

☆ここで紹介する謎々は「知里真志保ノート（北海道立文学館所蔵）」に基づくものです。ただし、一部の表現を改めました。

ステップ7 アクセント

アイヌ語のアクセントには、大きく次の2つの決まりがあります。

①最初の音節が開音節のときは、最初の音節が低くて2番目の音節が高い（但し例外がある）。

例 サパ sapa 「頭」 セタ seta 「イヌ」 ノヤ noya 「ヨモギ」

②最初の音節が閉音節のときは、最初の音節が高い。

例 アイヌ aynu 「人間、男性」 ランコ ranko 「カツラ」
スンク sunku 「エゾマツ」

以上のことに注意をしながら、次の言葉をアクセントに注意して発音してみましょう。

テクサム teksam 「～のそば」 と テクンペ tekunpe 「手甲」

ホシキ hoski 「先に」 と ホシピ hosipi 「～が帰る」

アツカ apka 「オスのシカ」 と アプンノ apunno 「静かに」

キムタ kim ta 「山に、山へ」 と キムンカムイ kimunkamuy 「ヒグマ」

サラキ sarki 「かや、よし」 と サランペ sarampe 「絹布」

ピリカ pirka 「～が良い」 と ピリヒ pirihi 「～の傷」

トゥルパ turpa 「～が～を伸ばす」 と トウルシ turus 「～が垢じみている」

☆アクセントには、例外があります。

以下の単語は最初の音節が開音節で、アクセントが最初の音節にあるものです。

フレ	hure	「赤い」
フチ	huci	「おばあさん」
トノト	tonoto	「酒」
ユカラ	yukar	「英雄叙事詩」
シノ	sino	「本当に」
ウセイ	usey	「湯」
ハポ	hapo	「お父さん」
ウナ	una	「灰」
コレ	kore	「～が～に～を与える」
クレ	kure	「～が～に～を飲ませる」
エレ	ere	「～が～に～を食べさせる」

ステップ8 単語を覚えよう2

- | | | | |
|----|------|--------|---------|
| 1 | シノッ | sinot | 「～が遊ぶ」 |
| 2 | マ | ma | 「～が泳ぐ」 |
| 3 | アプカシ | apkas | 「～が歩く」 |
| 4 | ホユプ | hoyupu | 「～が走る」 |
| 5 | モコロ | mokor | 「～が寝る」 |
| 6 | モシ | mos | 「～が起きる」 |
| 7 | マッケ | makke | 「～が開く」 |
| 8 | アシ | as | 「～が閉まる」 |
| 9 | アフン | ahun | 「～が入る」 |
| 10 | アシン | asin | 「～が出る」 |

ステップ9 言葉あそびで覚えよう2

十勝地方のとなえごと

◇地震しずめのまじない

クマンジャリ	クマンジャリ	クマンジャリ	クマンジャリ
kumancari	kumancari	kumancari	kumancari

シリポクナ クシ!	シリポクナ クシ!
sirpokna kus!	sirpokna kus!

「地の底の方を通れ! 地の底の方を通れ!」

☆ 地震の時にとなえるまじないの1種です。地震は地底にいるアメマスなどの大きな魚が起こしていると考えられていました。そこで「地の底へ行け」や「お前の腰骨を突くぞ」などと唱えてアメマスを脅すことで地震をしずめるまじないです。「クマンジャリ」は東北地域で地震の時に唱える「万歳楽（まんざいらく）」が元になっているようです。

このまじないの収録にあたって、『「東北北海道のアイヌ古謡録音テープ」の内容調査研究』アイヌ文化研究会（「アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第8号下巻資料編」財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 2009年）を参照しました。

ステップ 10 「～しない」 否定文

(初級ステップ24参照)

(例文)

1. タアン ヘカチ ナ ソモ モコロ。
taan hekaci na **somo** mokor.
「この男の子はまだ眠らない」
2. ニサッタ アプト アシナンコロクス、ソモ カラパクスネ。
nisatta apto as nankor kusu, **somo** k=arpa kusune.
「明日は雨だろうから、(私は) 行かないつもりだ」
3. イワン チュフカ クサパカラ カ ソモ キ。
iwan cup ka ku=*sapakar* **ka** **somo** **ki**.
「私は6 ヲ月も髪を切つてない」
4. エシットウライヌ カ ソモ キ ノ、アプンノ エアプカシワ ピリカ。
e=sitturaynu **ka** **somo** **ki** no, apunno e=apkas wa pirka.
「(君が) 道に迷わずに、何事もなく (君が) 歩いてきてよかった」
5. クコロ セタ エヌカラ カ ソモ キ ヤ？
ku=kor seta e=nukar **ka** **somo** **ki** ya?
「私のイヌを (君は) 見なかったか？」
6. 漁師 クネルウェ カ ソモ ネ。理容師 クネ。
漁師 ku=ne ruwe ka **somo** **ne**. 理容師 ku=ne.
「私は漁師じゃありません。(私は) 理容師です」

「～しない」の言い方

「～ではない」や「～しない」などの否定の文章は、ソモ *somo* をつかって表現します。ソモは副詞の一種で、動詞の前に置くとその動詞を否定する意味になります。例文1ではモコロ *mokor* 「眠る」にソモをつけて「眠らない」という文にしています。1人称や2人称の文では、例文2のように人称接辞よりも前にソモがつきます。

また、動詞の後ろにカ ソモ キ *ka somo ki* 「～しない」というフレーズを付けて否定の意味を表すこともできます。動詞の前にソモを置くのと意味の違いはありません。カ *ka* は「～も」にあたる助詞ですが、「無い」「しない」「できない」などの否定的な表現にともなって使われることが多く、「～も」と訳す必要がないこともあります。

ステップ 11 「～ができない」「～がわからない」 否定動詞による否定文

(初級ステップ76参照)

(例文)

1. タン マキリ シコポプワ カ トウイエ カ ケアイカプ.
tan makiri sikopop wa ka tuye ka k=eaykap.
「このナイフは錆びて糸を切る事も (私は) できない」
2. クシノッ アイネ シリクンネ ヒ カ ケラムシカリ.
ku=sinot ayne sirkunne hi ka k=eramuskari.
「(私が) 遊んでいるうちに暗くなったことも (私は) わからなかった」
3. シケトク サク ペ アイヌ ネ。
siketok sak pe aynu ne.
「人間は目の先を持たないものだ (先のことが見えないものだ)」
4. シコッペツ チェプオツ。トウシペツ チェプ サク.
sikotpet cep ot. tuspel cep sak.
「千歳川には魚がたくさんいる。利別川は魚を欠く」
5. イミ ネヤッカ イペ ネ ヤッカ ネプアエシリキラペカ イサム.
imi neyakka ipe ne yakka nep a=esirkirap pe ka isam.
「着る物でも食べる物でも何も (私が) 困る事がない」
6. カキヒ エク シリ カ イサム.
k=akihi ek siri ka isam.
「私の弟は来る様子もない」

否定的な意味を持つ動詞

動詞の中には、ソモなどを使って否定の形にしなくても、はじめから否定的な意味を持っているものがあります。

エアシカイ easkay	⇔	エアイカフ eaykap	アン an	⇔	イサム isam
「～は～ができる」		「～は～ができない」	「～がある」		「～がない」
エラムアン eramuan	⇔	エラムペウテク erampewtek	インネ inne	⇔	モヨ moyo
「～は～がわかる」		「～は～がわからない」	「～が多い」		「～が少ない」
コロ kor	⇔	サク sak	ヌプル nupur	⇔	パン pan
「～が～を持つ」		「～が～を欠く」	「～が濃い」		「～がうすい」

ステップ12 ルウェ・シリ・ハウエ 形式名詞の使い分け

(初級ステップ64参照)

(例文)

1. タント レラ ユツケ シリ ネクス、イカクシテプコロワ アラパ。
tanto rera yupke **siri** ne kusu, *ikakustep* kor wa arpa.
「今日は風がひどいようだから、上着を持っていけ」
2. ネンカ エク フミ ネナ。ソイネ ワインカラ。
nen ka ek **humi** ne na. soyne wa inkar.
「誰か来たようだよ。外に出てみなさい」
3. ウフイヌプリ アナク ピリカ ヌプリ ネ ルウェ ネ。
uhuynupuri anak pirka nupuri ne **ruwe** ne.
「樽前山はきれいな山なんだよ」
4. エオムケカラ ハウエ ネヤクン、ト エピッタ エシニ ヤク ピリカ。
e=omkekar **hawe** ne yakun, to epitta e=sini yak pirka.
「(君が) 風邪をひいたと言うのなら、一日 (君が) 休んでいるといい」

見たこと、聞いたこと、確信したこと

ルウエ ruwe、シリ siri、ハウエ hawe は、どれも日本語の「こと」、「もの」、「ようす」などにあたる意味をあらわすもので、形式名詞とよぶ名詞の一種です。「ポロセタネ ルウエ！ poro seta ne ruwe！大きいイヌだこと！」、「タンセタクコロセタネ ルウエネ。tan seta ku=kor seta ne ruwe ne. このイヌは私のイヌなんだ（であるのだ）」、「セタモコンルウエクヌカラ。seta mokor ruwe ku=nukar.

イヌが寝ているようす（寝ているの）を見た」のように、文の意味に応じて訳し分けると自然な日本語になります。

日本語では「樽前山は美しい山なんだ」というとき、山の美しさを人から聞いたのか、それとも自分で見たのかによって、表現が変わることはありません。ところが、アイヌ語では目で見た様子はシリ siri、人の話で聞いたものはハウエ hawe で表します。したがって、樽前山を見たことがない人が「(聞くところによると) 美しい山だ」と言った場合は、ハウエ hawe を使って「ピリカヌプリネハウエネ。pirka nupuri ne hawe ne.」といます。また、ルウエ ruwe は、話し手が確定した事実だと考えている事柄に使います。まとめると次のようになります。

siri 視覚的情報にもとづく事柄

例：「(水量を見て) この川はあふれている」

タンペツワッカポロシリネ。tan pet wakkaporo siri ne.

hawe 言葉・人の声などの情報にもとづく事柄

例：「(地名案内を聞いて) この川の名は鷓川だ」

タンペツレヘムカベツネハウエネ。tan pet rehe mukapet ne hawe ne.

ruwe 話し手が確信している事柄

例：「(確信を持って) この川の名は鷓川だ」

タンペツレヘムカベツネルウエネ。tan pet rehe mukapet ne ruwe ne.

例にあるように、形式名詞は「～ネルウエネ。～ne ruwe ne」や「～ネルウエタパン。～ne ruwe tapan」などの決まった形で文の終わりに出てきます。ただし、日本語の「～です」のように、必ず文末につくというものでもなく、あまり使いすぎると不自然な文になるようです。

ステップ 13 単語を覚えよう 3

1	ラメトッコロ	rametokkor	「勇気のある」
2	パウエトッコロ	pawetokkor	「雄弁な」
3	シレトッコロ	sirettokor	「容姿端麗の」
4	ヤイエサンニヨ	yayesanniyo	「まじめな」
5	ラムアン	ramuan	「利口な」
6	ヌチャクテク	nucaktek	「ほがらかな」
7	ピリカ	pirka	「美しく立派な」
8	ラムハウケ	ramuhawke	「気立てがいい」
9	ヌプル	nupur	「霊力のある」
10	オйна	oyna	「尊い」

ステップ14 言葉あそびで覚えよう3

美幌地方の言葉あそび

◇サマイクルの弓の弦が切れた時のイム

オレパシアン ペスワスワ ネイケ
ヤーケワ アン ペトンチカマ ネイケ
ウコウトウル ポロ ト オンネ ト
トゥ スイ パケ チアウンケ
レ スイ パケ チアウンケ
フタタウエ
orepasi an pe suwasuwa ne ike
yake wa an pe toncikama ne ike
ukouturu poro to onne to
tu suy pake ciawunke
re suy pake ciawunke
hutatawe

沖にあるものはスワスワであって
陸にあるものはトンチカマであって
その間にある大きな湖に
二度頭を突っ込み
三度頭を突っ込み
ああ驚いた

☆サマイクルという、世界を作ったえらい神様の伝承です。イムというのは驚いたときなどに変わった行動をすることです。サマイクルの弓の弦が切れた時に、驚いてこんな叫びをあげたそうです。

☆この歌の収録にあたって、日本放送協会放送文化研究所・日本コロムビア（1949）『アイヌ歌謡集 第2集』を参照しました。

ステップ 15 「私は～」「君は～」1人称・2人称単数主格

(初級ステップ28参照)

(例文)

1. クポウタリ トウラ クソイネワ クマナン。
ku=poutari tura ku=soyne wa k=omanan.
「(私の) 子どもたちと一緒に (私は) 外に出て (私は) 歩き回った」
2. ウパシ クコタプワ ウパシアイヌ クカラクス ネ。
upas k=ukotapu wa upasaynu ku=kar kusu ne.
「雪を (私は) 丸めて雪だるまを (私は) 作る事にする」
3. ソモ エワッカタ ノ、マカナク エイキ コロ エアン？
somo e=wakkata no, makanak e=iki kor e=an?
「(君は) 水汲みもしないで、どう (君は) して (君は) いたんだ？」
4. エニマキ アラカ クス エチシハウエ ネ ヤクンイサ オルン エアラパヤク
ピリカ。
e=nimaki arka kusu e=cis hawe ne yakun isa or un e=arpa yak pirka.
「(君の) 歯が痛くて (君が) 泣いているというなら医者 (君が) 行
たらいいよ」

誰の動作かによって動詞の形が変わる

アイヌ語の動詞は、主語（その動作をしている人・もの）が何であるかによつて形が変わります。主語が「私（1人称単数）」の場合は、動詞の前にク ku= が、「君（2人称単数）」の場合はエ e= が付いた形になります。これらは動詞につく部品のようなもので、主格人称接辞と呼びます。主格人称接辞は名詞の前について「クポウタリ 私の子どもたち」や「エニマキ 君の歯」等の意味も表します。

日本語の「私」「君」とは違う

例文の訳には（ ）の中に入れて「私は」「君は」のように主語を表示してあります。日本語では、主語は初めに1回示せば済みますし、それさえも会話文では省略されるのが普通です。それに対し、アイヌ語では、1つの文の中の全ての動詞が「私は～する」や「君は～する」という形になります。ですから「日本語の「私は」は、アイヌ語ではクというのだ」という覚え方をすると、次のような間違いが起こりやすくなります。

「私はカボチャを洗って切ったが、まだ煮ていない」

○カプッチャ クフライエヒネ クトウイエ コロカナ クスウエカソモキ。

×クカプッチャ クフライエヒネ クトウイエ コロカナ クスウエカソモキ。

日本語の文をもとに単語を置き換えて行くと下段の文になりますが、これではアイヌ語の文としては誤りです。クは代名詞ではなく、あくまで動詞の一部です。否定文にする際も、人称接辞までが1つの単語ですから、ソモをつけるのはそれより前の位置です。こうした動詞の人称変化は日本語にはない現象ですので、まずは動詞を見たらクやエを付けるように意識しましょう。

アクセントが動く

名詞や動詞の前にクやエが付くと、アクセントが、クやエの後ろに移ります。

「～の手」 テケ → 「私の手」 クテケ ※ 部がアクセント

「～が～を洗う」 フライエ → 「私が～を洗う」 クフライエ

また、特に千歳・沙流・鶴川方言では、母音で始まる言葉に ku= がつくと、u の音がなくなります。この場合はアクセントはいちばん前に移ります。

「私が座る」 クア ku=a (幌別) → カ k=a (千歳など)

「私が来る」 クエク ku=ek (幌別) → ケク k=ek (千歳など)

ただし、i で始まる言葉の場合には、i が弱まって ku= とひとつながりの音節として発音されます。アクセントは最初のクに移り、一息にクイ kuy と発音します。

「私が話す」 クイタク ku=itak (幌別) → クイタク ku=ytak (千歳など)

「私が腹を立てる」 クイルシカ ku=iruska (幌別) → クイルシカ ku=yruska
(千歳など)

ステップ 16 「私たちは～」「君たちは～」 1人称・2人称複数主格

(初級ステップ37参照)

(例文)

1. テエタ アムシペカ ペツ オッタ オカイ ペネクス ポロンノ チコイキワ
チェ ヲネ。

teeta amuspe ka pet or ta okay pe ne kusu poronno ci=koyki wa c=e p ne.

「むかしカニも川にいたもんだからたくさん (私たちは) とって (私
たちは) 食べたよ」

2. ピリカ ヲパテク エチ エアナンコロ。

pirka p patek eci=e a nankor.

「すてきな物ばかり (君たちは) 食べてたんだろねえ。

マチヤ オッタ オカアシ ペネクス アムシペカ チ エカ エラムシカリ ア
ワ。

maciya or ta oka=as pe ne kusu amuspe ka ci=e ka eramuskari a wa.

町に (私たちは) いるもんだからカニも (私たちは) 食べたことがないよ」

3. イタソカタ エチ ロクヤクン エチ メライケナンコロ。キナ トゥリヤン。

itaso ka ta eci=rok yakun eci=merayke nankor. kina turi yan.

「板床の上に (君たちは) 座ったら (君たちは) 寒いでしょう。ゴザを
ひきなよ」

4. 座布団 カタ ロクアシ ワ オカアシ クス、ピリカワ ピリカワ。

座布団 ka ta rok=as wa oka=as kusu, pirka wa pirka wa.

「座布団の上に (私たちは) 座って (私たちは) いるから、いいよいいよ」

「君たちが～する」のいい方 (2人称複数主格)

ステップ 15 では、主語が「私」や「君」のように単数のときの主格人称接辞を学びました。ここでは「私たち」や「君たち」など、主語が複数の場合の主格人称接辞を紹介します。主語が「君たち (2人称複数)」である場合は、動詞の前にエチ eci= がついた形になります。このとき、複数形を持つ動詞であれば複数形を使います (動詞の複数形についてはステップ 30 で説明します。)

また、クやエがつくと、単語のアクセントが変化しましたが、エチの場合はアクセントはもとのままです。このため、3つ目や4つ目の母音にアクセントが来るとい、アイヌ語としては少し風変わりな発音になることもあります。

「君が来た」エエク。e=ek. → 「君たちが来た」エチアラキ。eci=arki.

「君が帰る」エホシピ。e=hosipi. → 「君たちが帰る」エチホシッパ。eci=hosippa.

「私たちが～する」のいい方（除外的1人称複数主格）

「私たちが（1人称複数）」と言うときの人称接辞は2つあります。名詞と他動詞の場合には前にチ ci= がつきます。クやエと同じく、アクセントもチの後ろに動きます。

「～の目」シキ siki → 「私たちの目」チシキ ci=siki

「～が～を開ける」マカ maka → 「私たちが～を開ける」チマカ ci=maka

千歳・沙流・鶴川では、i以外の母音で始まる言葉にチ ci= がつくと、iの音がなくなります。

「～の髪」オトピ otopi → 「私たちの髪」チヨトピ c=otopi

「～が～を捨てる」オスラ osura → 「私たちが～を捨てる」チヨスラ c=osura

自動詞の場合は後ろにアシ=as がつきます。2人称複数と同じく1人称複数の場合も、動詞に単数・複数の区別がある場合は複数形を使います。

「私が来る」ケク。k=ek. → 「私たちが来る」アラキアシ。arki=as.

「私が座る」カ。k=a. → 「私たちが座る」ロクアシ。rok=as.

このとき、動詞のアクセントのほかに、アシ=asにもアクセントが置かれます。また、次のように動詞が子音で終わっている場合は一続きに発音されることもあります。

「私たちが話す」イタクアシ。⇔ イタカシ。「私たちが下りる」サッパアシ。⇔ サパシ。

「聞き手を含まない」

例文に出て来た「私たち」は、どれも聞き手を含んでいません。そこで「動作の主語に聞き手が含まれない」という意味で「除外的1人称複数」と呼びます。このことをよりはっきりさせるため「手前ども」という訳語を当てることもあります。次のステップでは、聞き手を含む「私たち」を学びます。

ステップ 17 「いっしょに～する」 包括的 1人称複数主格

(初級ステップ38参照)

(例文)

1. タント フナクン パイエアン ヤクン ピリカ ルウェ アン？
tanto hunak un paye=an yakun pirka ruwe an?
「今日どこに (私たちが) 行ったらいいかな？」
2. 洞爺 オッタ パイエアン マ ポロチフヘネ アオワ シノッアン ロ。
洞爺 or ta paye=an wa porocip hene a=o wa sinot=an ro.
「洞爺に (私たちが) 行って遊覧船にでも (私たちが) 乗って (私たちが) 遊びましょう」
3. ネア ウナラペ ネフネ ヤッカ エラムアンクス、アタクワ
アコウェペケンヌ ロ。
nea unarpe nep ne yakka eramuan kusu, a=tak wa a=kowepekennu ro.
「あのおばさんは何でも知ってるから、(私たちが) 招待して (私たちが) 話を聞こうよ」
4. ニサッタ 車 チョ チトウラクスネ。ホシキノ エチパイエ ヤッカ
ピリカ。
nisatta 車 c=o wa ci=tura kusune. hosokino eci=paye yakka pirka.
「あした私たちが車にのって(私たちが)連れて行くよ。君たちは先に行つててもいいよ」
5. ハウェネヤクン、トペンペ チホクワ パイエアシクスネ。アエコロ
ウコイタカン ロ。
hawe ne yakun, topenpe ci=hok wa paye=as kusu ne. a=e kor ukoytak=an ro.
「では、私たちは菓子を買って (私たちは) 行こう。(私たちが) 食べながら (私たちが) 話そう」

2つの「私たち」

例文1では「私たちはどこにでかけようか」ということを話題にしています。この「私たち」には、話し手と聞き手の両方が含まれており「一緒に」と言い換えても同じ意味になります。これを「(聞き手を含む)私たち」という意味で「包

括的1人称複数」といいます。例文2・3の「私たち」も、「一緒に」と訳すことができます。ただし、例文4と5に出てくるチ ci= やアシ=as で表された「私たち」は「一緒に」とは訳せません。ここでは話し手は、聞き手である「君たち」とは別行動を取っているからです。このような「私たち」は強いて言い換えようとするれば「手前ども」や「こちら」となるでしょう。

この2つを見分ける感覚がつけば、アイヌ語を学ぶ上でとても役に立ちます。次の文の「私たち」は、「一緒に」と「こちら」のどちらに言い換えられるでしょう。

- ①私たちは映画を見てから行きます。 ②私たちがここで会うのは3回目ですね。
 ③秋になると私たちはトンボを取ったね。④私たちが作った団子を食べて下さい。
 ⑤彼が庭を掃くから私たちは床を拭こう。⑥私たちがも行っているんですか？

「私たちみんなで～する」の言い方 (括的1人称複数主格)

「私たちが (みんなが)」と言うときの人称接辞は2つあります。名詞と他動詞の場合には前にア a= がつきます。eci= と同じく、アクセントの移動が起こりません。

「～の目」キサラ kisara → 「私たちの目」アキサラ a=kisara

「～が～を恐れる」シトマ sitoma → 「私たちが～を恐れる」アシトマ a=sitoma

自動詞の場合は後ろにアン =an がつきます。2人称複数と同じく1人称複数の場合も、動詞に単数・複数の区別がある場合は複数形を使います。

「私が行く」カラパ。k=arpa. → 「私たちが行く」パイエアン。paye=an.

「私が老いる」コンネ。k=onne. → 「私たちが老いる」オンネアン。onne=an.

このとき、動詞のアクセントのほかに、アン =an にもアクセントが置かれます。また、次の様に動詞が子音で終わっている場合は一続きに発音されることもあります。

「私たちが話す」イタクアン。⇔ イタカン。「私たちが遊ぶ」シノッタン。⇔ シノタン。

	名詞・他動詞	自動詞
③ ④ ⑤ 除外的 1人称複数 (聞き手を含まない)		
① ② ⑥ 包括的 1人称複数 (聞き手を含む)		

ステップ18 「私に～」 「君に～」 1人称・2人称目的格

(初級ステップ52、53、54参照)

(例文)

1. ワッカ クル スイナ。ハポ ワッカ エンクレヤン。
wakka ku=ku rusuy na. hapo wakka en=kure yan.
「(私は) 水が飲みたいよ。父さん水を (私に) 飲ませてちょうだい」
2. サンタエカシ エオイラ カソモキノ、エコエクナンコロ。
サンタ ekasi e=oyra ka somo ki no, e=koek nankor.
「サンタのおじいさんは 君を 忘れずに、君の所 にくるでしょう」
3. ホクレ、エピリカハウエ ウンヌレヤン。
hokure, e=pirkahawe un=nure yan.
「さあ、君の素敵な声を 私たちに 聞かせてちょうだい」
4. トアンパシクル エチヌカンナ、ヘタク エチコロシトヌイナヤン。
toan paskur eci=nukar na, hetak eci=kor sito nuyna yan.
「あのカラスが 君たち を見てるから、はやく 君たち の団子をかくして」
5. カムイ アイヌコロ アキヤクンカムイ カ イエプンキネッネナ。
kamuy aynukor a=ki yakun kamuy ka i=epunkine p ne na.
「カムイを (私たち) 大事にしていれば、カムイも 私たち を守ってくれるものだから」

「私に」と「私が」

これまで学んだ人称接辞は、どれも主語を表す主格人称接辞でした。日本語でいえば「私の」や「私は」、「君が」など、「物の持ち主」や「動作を主になって行う人」を表します。

例文1は「父さんが私に水を飲ませる」ことを求めています。「クレ kure 飲ませる」という動詞の主語は「父さん」で、「私」は飲ませる対象です。このように、主語ではなく動作の対象（目的語）を表すものを目的格人称接辞と呼びます。日本語では、主語なら「～は、～が」、目的語なら「～を、～に」といった助詞の使い分けで表現するところですが、アイヌ語では「私」の形が全く変わるので注意が必要です。クやエンを訳すときには「私が」「私を」のように助詞まではっきり意識するとよいでしょう。

目的格人称接辞は、どれも動詞や名詞の前につきます。

私を、私に対して～	エン en=
君を、私に対して～	エ e=
君たちを、私に対して～	エチ eci=
私たちを、私に対して～ (聞き手を含まない)	ウン un=
私たちを、私に対して～	イ i=

「私の前に」「私のように」

目的格人称接辞は、動詞のほかにも位置関係を表す名詞（ステップ36）や後置副詞と結びつきます。エンの意味を「私に対して」と考えるとわかりやすいかもしれませんが、それぞれのステップで詳しく説明していますので参照してください。

位置名詞

「(~に対して) 前」コッチャ kotca	「(~に対して) 後ろ」オシマケ osmake
「私の前」○エンコッチャ en=kotca	「私の後ろ」○エンオシマケ en=osmake
×クコッチャ ku=kotca	×コシマケ k=osmake

後置副詞

「(~に) 似て」ネノ neno	「(~に対して) よりも」アッカリ akkari
「私に似て」○エンネノ en=nenno	「私よりも」○エンアッカリ en=akkari
×クネノ ku=nenno	×クアッカリ ku=akkari

ステップ 19 単語を覚えよう 4

1	ハウケノ	hawkeno	「静かに」
2	ユブケノ	yupkeno	「激しく」
3	トゥナシノ	tunasno	「急いで」
4	ラッチノ	ratcino	「ゆっくりと」
5	ピリカノ	pirkano	「きれいに」
6	イヨッタ	iyotta	「最も、一番」
7	ニサプノ	nisapno	「急に」
8	ソンノ	sonno	「非常に」
9	レンカイネ	renkayne	「勝手に」
10	アリキキノ	arikikino	「一生懸命に」

ステップ20 言葉あそびで覚えよう4

◇人称接辞の歌（「ドレミの歌」の節で）

クは私の ku= エはあなたの e= eci=（エチ）あなたたち
 ci=（チ）はてまえども =as（アシ）は自動詞に a=（ア）は一般に
 =an（アン）は敬称も en=（エン）un=（ウン）e=（エ）eci=（エチ）i=（イ）

☆歌って人称接辞の役割を覚えてしまいましょう。（作成：北原次郎太）

ク	ku=	1 人称単数主格	動詞について「私は、私が」 名詞について「私の」
エ	e=	2 人称単数主格	動詞について「君は、君が」 名詞について「君の」
エチ	eci=	2 人称複数主格	動詞について「君たちは、君たちが」 名詞について「君たちの」
チ	ci=	除外的 1 人称複数主格	他動詞について 「(相手を含まない) 私たちは、私たちが」 名詞について「私たちの」
アシ	=as	除外的 1 人称複数主格	自動詞について 「(相手を含まない) 私たちは、私たちが」
ア	a=	不定人称主格	他動詞について 「(相手を含む) 私たちは、私たちが」 「一般に人は、人が」 「(敬称表現の際に) あなたは、あなたが」 名詞について「(相手を含む) 私たちの」
アン	=an	不定人称主格	自動詞について 「(相手を含む) 私たちは、私たちが」 「一般に人は、人が」 「(敬称表現の際に) あなたは、あなたが」
エン	en=	1 人称単数目的格	他動詞について「私に、私を」
ウン	un=	1 人称複数目的格	他動詞について「私たちに、私たちを」
エ	e=	2 人称単数目的格	他動詞について「君に、君を」
エチ	eci=	2 人称複数目的格	他動詞について「君たちに、君たちを」
イ	i=	不定人称目的格	他動詞について 「(相手を含む) 私たちに、私たちを」 「人に、人を」「あなたを」

ステップ 21 「私が君に～」 「君が私に～」 人称の組み合わせ

(例文)

1. ヌマン ピリカ ヲ エンコレルウエ ネクス、タサタン ペ エチコレナ。
numan pirka p en=kore ruwe ne kusu, tasa tan pe eci=kore na.
「昨日良いものを (君が私に) くれたから、お返しにこれを (私が君に) あげるよ」
2. エウンコシネウエ ワ イヤイライケレ。 エチコブンテクナ。
eun=kosinewe wa iyayraykere. eci=kopuntek na.
「(君が) 私たちを訪ねてくれてありがとう。 (私たちが君を) 歓迎するよ」
3. タアン ノンノムイ エチトクイエ エチコレ ヲ ネルウエ？
taan nonnomuy eci=tokuye eci=kore p ne ruwe?
「この花束は 君たちの友達が君たちに くれたのかい？」
4. エチウンコレ ヲ ネクナク チラム ロク ペ、フンナ ウンコレ シリ ネナン
コロ。
eciun=kore p ne kunak ci=ramu rok pe, hunna un=kore siri ne nankor.
「君たちが (私たちに) くれたのだと (私たちが) 思っていたのに、誰が (私たちに) くれたんだろう」

「私が君に」(主格目的格変化)

「私が君に～」や「君が私に～」という文は、主格と目的格の人称接辞を組み合わせて表現します。これを主格目的格変化と呼びます。方言によってかなりの違いがあり、まだわからない部分の多いところです。

千歳方言の人称の組み合わせを表にしました。縦の列に主格、横の行に目的格を置いてあります。「私が君を～」は、まず縦列の「私が」を探し、そこから右へ行って「君に」に当たる所にある「エチ eci=」を使います。千歳方言ではエチ eci=で「私が君に」、「私が君たちに」、「私たちが君に」、「私たちが君たちに」の4通りの意味を表すことができます。「私が」を表す「ク」と、「君に」を表す「エ」を組み合わせて「クエ～」とすれば良さそうですが、このような表現はどの方言にもありませんので注意してください。

・コレ kore 「～が～に～を与える」の主格目的格変化表

主 ～が	目～に	彼に	私に	私たちに	君に	君たちに
彼が			エンコレ。 en=kore.	ウンコレ。 un=kore.	エコレ。 e=kore.	エチコレ。 eci=kore.
私が		クコレ。 ku=kore.			エチコレ。 eci=kore.	エチコレ。 eci=kore.
私たちが		チコレ。 ci=kore.			エチコレ。 eci=kore.	エチコレ。 eci=kore.
君が	エコレ。 e=kore.	エンコレ。 en=kore.	ウンコレ。 un=kore.			
君たちが	エチコレ。 eci=kore.	エチエンコレ。 ecien=kore.	エチウンコレ。 eciun=kore.			

命令文との違い

「魚をくれ」などの命令文では、「くれる」行為の主体が「君」であるためか「君が私にくれた」という文と混同する事があります。命令文は主格人称が表示されないので注意して下さい。

ステップ 22 「私も」「君も」を強調する人称代名詞

(例文)

1. カニ ソンパケクス ネ。 エアニ カ エエルスイルウエ？
kani sompa k=e kusu ne. **eani** ka e=e rusuy ruwe?
「私はそばを（私は）食べるよ。 君も（君は）食べたいかい？」
2. カニ へ？ カニ カ カラパルスイ コロカ タント アナク 弁当 クコロワケク。
kani he? **kani** ka k=arpa rusuy korka tanto anak 弁当 ku=kor wa k=ek.
「私かい？ 私も（私は）行きたいけれど今日は弁当を（私は）持って（私は）来たんだ」
3. ネア アチャポ マチャ ウン アラパ ワ、ポウタリ 映画 ヌカレ ヒネ シヌマ 本屋オッタ アン。
nea acapo maciya un arpa wa, poutari 映画 nukare hine **sinuma** 本屋 or ta an.
「あのおじさんは町に出かけて子供達には映画を見せて自分は本屋にいる」
4. チョコカ アナク シコウウンクルチネ。 エチオカ フナク ワ エチアラキルウエアン？
coka anak sikotunkur ci=ne. **ecioka** hunak wa eci=arki ruwe an?
「私たちは千歳の者（私たち）だよ。 君たちはどこから（君たちは）来たんだい？」

人称代名詞

人称代名詞は日本語の「私」や「君」にあたるものですが、日本語の「私・君」がかなり頻繁に使われるのに対して、アイヌ語の人称代名詞は（方言にもよりますが）それほど使う機会がありません。主語や目的語は動詞の形が変化することで表されるので、人称代名詞を使うのは、主語や目的語が誰であるのかを特に強調したいときに限られます。

	単数	複数
1 人称	カニ kani 私	チヨカ coka (相手を含まない) 私たち
2 人称	エアニ eani 君	エチオカ ecioka 君たち
3 人称	シヌマ sinuma 彼	オカ oka 彼ら
不定人称	アシヌマ asinuma ※	アオカ aoka (相手を含む) 私たち

※アシヌマは、引用の1人称や、口承文学の中の1人称、相手をごく敬う時に相手を指す言葉として使われます。

引用の1人称は、例えば『私は帰る』とあの人が言った』という文の『』に入った部分のように、誰かの言ったことを引用して語る場合に使われます。このような使い方は、千歳や沙流の方言で知られていますが、他の地方にも同じような話し方があるのかは、まだよくわかっていません。

敬称についてはステップ 23 で紹介しますが、相手を特に敬って話す場合は、動詞や人称接辞の使い方が特殊になります。同様に、人称代名詞も通常とは異なり、相手を指すものとして不定人称代名詞を使います。

ステップ 23 「～なさいましたか？」 「～なさってください」 尊敬の表現

(初級ステップ65参照)

(例文)

1. イペアンアルウェ? ナ ソモ イペアン ヤクン テタ ロクアンマ イペアン ヤク ピリカ。

ipe=an a ruwe? na somo **ipe=an** yakun te ta **rok=an** wa **ipe=an** yak pirka.

「あなたは食事をなさいましたか? まだでしたらここへ (あなたが) おかけになって (あなたが) 食事なさってください」

2. フナクン パイェアン マ カパッチリ アヌカラ ハウエ アン?

hunak un **paye=an** wa kapatcir **a=nukar** hawe an?

「あなたはどちらへおいでになってタカを (あなたは) ごらんになったのですか?」

3. フシコプリ エラムアンクル アネクス、カパトカ アエ アムキリナンコロ。

huskopuri eramuan kur **a=ne** kusu, kapato ka **a=e** amkir nankor.

「あなたは昔の暮しをご存じの方でいらっしゃるので、河骨も (あなたは) 召しあがったことがあるでしょう」

4. イクパスイ ネヤッカ エムシネヤッカ、アカラ ペソンノ ピリカ。

ikupasuy ne yakka emus ne yakka, **a=kar** pe sonno pirka.

「捧酒籠でも宝刀でも、あなたがお作りになった物はすばらしい」

尊敬の表現

アイヌ語ではある種の名詞や人称接辞を用いて尊敬の表現が組み立てられます。この課では主として人称接辞を用いた尊敬の表現について取り上げます。

聞き手に対する尊敬を表す場合には、ア a= (方言によってはアン an=)、アン=an という人称接辞が使われます。これは「(聞き手を含めた) 私たち」という意味を表す人称接辞と同じ形ですが意味の異なるものです。また、単数と複数の区別のある動詞の場合には複数形の動詞が使われます。なお、このタイプの尊敬の表現は、成人女性が成人男性に対して用いるのが一般的とされています。また、ウウェランカラパイタク uwerankarapitak といっごく改まった話し方でのあいさつでは、男性どうしても尊敬の表現を使います。

さらに、方言によっては、2人称の複数を表わすエチ eci=「あなたたち」が聞き手に対する丁寧な表現を表わすことがあります。このタイプの表現はア a= やアン=an を用いた尊敬表現よりも幅広く使われるようです。

敬意を表す際に使う名詞としては、ステップ 22 で紹介した不定人称代名詞、「おじいさん」や「おばさん」など目上の人を指す親族名称や、タアンクル taankur 「この人」を使って相手を表すことなどが挙げられます。

タン ノカ エヌカンルウエ？

tan noka e=nukar ruwe?

「この絵を（君は）見たかい？」

エカシ。タン ノカ ヌカンルウエ？

ekasi. tan noka nukar ruwe?

「おじいさん。この絵をみましたか？」

タアンクル。タン ノカ ヌカンルウエ？

taankur. tan noka nukar ruwe?

「あなた。この絵を見ましたか？」

ステップ 24 「きれいに」「ゆっくり」「みじかく」 副詞

(例文)

1. ナ タクネノ イエ ヤン。
na **takneno** ye yan.
「もう少しみじかく 言いなさい」
2. エン コラチ オトピ レタラ クル ラッチタラ アパカシ コロ アン。
en=**koraci** otopi retar kur **ratcitar**a apkas kor an.
「私のように髪の白い人がゆっくりと歩いている」
3. イテキ イルシカ ノ クイエ オケレ パクノ ヌ ヤン。
iteki iruska no ku=ye okere pakno nu yan.
「おこらないで私が言いおわるまで聞いて」
4. エオイラ カ ソモ キ ノ エテケフライエルウエ? イラヤパカ!
e=oyra ka **somo ki no** e=tekehuraye ruwe? irayapka!
「(君は) 忘れないで (君は) 手を洗ったの? えらいねえ!」
5. タネ キシノツチャ イヨッタ ケラマス!
tane ki sinotca **iyotta** k=eramasu!
「今歌っている歌が 一番 (私は) 好きだ!」

副詞のはたらき

この課では主として副詞を使った表現を取り上げます。副詞とは日本語の「たくさんある」「とてもはやい」などのように、動詞の前に置かれて動作・状態のあり方を説明する言葉です。

タネ tane 「今」 やイヨッタ iyotta 「いちばん」 なども、副詞の一部です。

副詞のなかには、動詞にノ -no という形を付けて規則的につくられるものがあります（例：ポン pon 「小さい」 →ポンノ ponno 「少し」、ピリカ pirka 「良い」 →ピリカノ 「良く」、トウイマ tuyma 「遠い」 →トウイマノ tuymano 「遠く」）。

また、「～しない、～ではない」という否定の表現にはソモ somo という副詞が、あるいは「けっして～するな」という禁止の表現にはイテキ iteki という副詞が用いられます（ステップ 29 を参照）。

ステップ 25 単語を覚えよう 5

1	ノミ	nomi	「～が～に祈る」
2	エブンキネ	epunkine	「～が～を見守る」
3	ヌレ	nure	「～が～に伝える」
4	ウク	uk	「～が～を受け取る」
5	シレパレ	sirepare	「～が～を届ける」
6	オリパク	oripak	「～が恐れ慎む」
7	ヤイライケ	yairayke	「～が～に感謝する」
8	エオリパク	eoripak	「～が～を尊敬する」
9	イナウケ	inawke	「～が木幣を削る」
10	イノンノイタク	inonnoytak	「～が祈り詞を唱える」

ステップ 26 言葉あそびで覚えよう 5

美幌地方のなぞなぞ

- ① オマナ オマナ アイネ シトゥリ ヲネヲネヤ?

oman a oman a ayne situri p nep ne ya?

山に行って自分自身を伸ばすものは何ですか?

☆ヒント 山で使う道具の一つです。長く伸ばして使うものといえば…。

答えは 86 ページ

- ① スムタク エパウシ ヲネヲネヤ?

sumtak epausi p nep ne ya?

脂のかたまりを頭にかぶっているものは何ですか?

☆ちょっと不思議な問題と答えです。脂のかたまりとは、雪帽子をかぶっている風景をたとえた表現です。

答えは 86 ページ

☆ここで紹介する謎々は「知里真志保ノート（北海道立文学館所蔵）」に基づくものです。ただし、一部の表現を改めました。

ステップ 27 人称接辞のまとめ

人称接辞についての注意点を思い出しましょう。

●人称接辞は動詞の一部

人称接辞と動詞はひとつながりの物なので、目的語やソモ・イテキ（副詞）は前に、ルスイ・ナンコロ（助動詞）や、ワ・ナ（終助詞）は後ろにつける。

主語
目的語

ソモ・イテキなど
副詞

人称接辞＋動詞

助動詞
終助詞など

●なにもない＝3人称

3人称は、動詞に何もつきません。複雑な文法事項を考えるときは「ゼロがつく」と考えた方がわかりやすいこともあります。動詞に何もついていないときは「誰でもない＝不定」なのではなく、その文か、それよりも前に出て来た「私・君」以外の誰かが主語になっていることに注意しましょう。

●省略しない

人称代名詞の「私」や「君」があっても、人称接辞は省略できません。また、同じ主語の動詞には全て同じ人称接辞がつきます。

カニ クソイネ ワ クワッカタ ワ ケ。

kani ku=soyne wa ku=wakkata wa k=ek.

私は（私は）外に出て（私は）水汲みをして（私は）来た。

●アクセントがかわる（こともある）

ク、エ、チなどがつくと、アクセントが移動します。ア、エチの場合は移動しません。

ヌカラ nukar ⇒ クヌカラ ku=nukar アフン ahun ⇒ カフン k=ahun

⇒ アヌカラ a=nukar

●動詞のタイプによって変わる

1 人称複数や尊敬表現の場合、自動詞にはアシやアンが動詞の後ろにつきます。その他どんな場合でも動詞の前に人称接辞がつきます。自動詞かどうかの判断は、主語以外に目的語が必要かどうか（例えば訳語に「～を」が入るかどうか）が目安になります。

パイエアシ paye=as チェプチコイキ cep ci=koyki
～が出かける 私たちが 魚 私たちが～を獲る

●「私は」と「私を」のちがい

「私が」「私たちは」など主語を表す→主格人称接辞 ク、チ～
「私に対して」「私たちを」など目的語を表す→目的格人称接辞 エン、ウン～
セタ クヌカラ。seta ku=nukar. セタ エンヌカラ。seta en=nukar.
「イヌを私が見る」 「イヌが私を見る」

●位置名詞や副詞にも「私に」を使う

「私の前」、「私のそば」、「私みたい」、「私よりやせてる」などの「私」は、全てエン（目的格人称接辞）で表します。

エンコッチャ エンサム エンネノ エンアッカリ
en=kotca en=sam en=nenō en=akkari
「私に対して前」 「私に対してそば」 「私に似た」 「私に対して、より」

●相手を含む私たちと含まない私たち

私たち（1人称複数）は、「私たち」としてくくられる中に聞き手が含まれるかどうかで2つに分かれます。

含まない（除外的1人称複数）	含む（包括的1人称複数）
自動詞＝アシ =as	自動詞＝アン =an
チ＝ ci＝ 他動詞	ア＝ a＝ 他動詞

●あなた様 ※敬語表現

聞き手を含む私たち（包括的1人称）アとアンは、そのまま敬称表現にも使えます。動詞に単数・複数の人種接辞をつけ、動詞も複数形にします。

ステップ 28 「あの」「この」「2つの」「3つの」いろいろな連体詞

(初級ステップ41、42参照)

(例文)

1. レ サロルンチカプホユプワアラパ。
re saroruncikap hoyupu wa arpa.
「3羽のツルが飛んで行った」
2. タン コタン タ カムキリ アチャポ アン。
tan kotan ta k=amkir acapo an.
「この町に私の知り合いのおじさんがいる」
3. ネ アチャポ ピリカ トウキ トウ プカ レ プカ コロ。
ne acapo pirka tuki tu p ka re p ka kor.
「そのおじさんはいい酒盃を2つも3つも持っている」
4. トオン シントコ カ オピッタ アチャポ コロ ペ ネ。
toon sintoko ka opitta acapo kor pe ne.
「あそこの行器もみんなおじさんの持ち物だ」

連体詞のはたらき

連体詞は日本語の「この、その」や「2つの」のように、名詞の前に置かれて位置や数などの情報を付け加える言葉です。

連体詞には数を表わすもの(「1つの」「2つの」)や空間を指示するもの(「この」「あの」)、前に出てきた話題を指示するもの(「その」)などがあります。この課では主な連体詞について取り上げます。

数を表わす連体詞には、シネ sine 「1つの、1人の」、トゥ tu 「2つの、2人の」、レ re 「3つの、3人の」などがあります(詳しくは初級ステップ42を参照)。

空間を指示する連体詞には、タン tan 「この(自分と同じ位置にあるもの)」、タアン taan (複数形はタアヌカ taanuka) 「この(自分から近い位置にあるもの)」、トアン toan (複数形はトアヌカ toanuka) 「あの(自分から遠い位置にあるもの)」などがあります。

なお、タン tan は時間の指示にも用いられます(例:タント tan to 「この日(今日)」)。

前に出てきた話題を指示する連体詞には、ネ ne 「その、例の」、ネア nea (複数形はネロク nerok) 「その、例の」などがあります。

ステップ29 「～しなさい」「～するな」命令・禁止

(初級ステップ32、33参照)

(例文)

1. ポイソン。エクワ ムンヌウエ。
poyson. ek wa munnuwe.
「私の息子。きて掃除をしな」
2. エカシテタ ロク ヤン。ホクレ アペクル ヤン ハニ。
ekasi te ta rok yan. hokure apekur yan hani.
「おじいさん、ここへ座ってください。さあ火にあたってください。」
3. ネン エクヤッカ エヌヌケワ ニシパエネ ナンコンナ。
nen ek yakka e=nunuke wa nispa e=ne nankor na.
「誰が来ても（君は）親切にして（君は）立派な人になるんだよ」
4. タネソンノクシンキナ。エンカイワ エンコレ ヤン。
tane sonno ku=sinki na. en=kay wa en=kore yan.
「もうほんとうに（私は）疲れたから、（私を）おんぶしてちょうだい」
5. ラヨチ アナク カミアシネクス、イテキ エウン インカラヤン。
rayoci anak kamiasi ne kusu, iteki eun inkar yan.
「虹というものは化け物だから、決してその方を見るんじゃないよ」
6. イテキ チシノ モコロ ハニ。
iteki cis no mokor hani.
「泣かないで寝なさいよ」

命令文の作り方

「～なさい」という命令の表現には、動詞をそのまま用いることができます（例：ヌカラ nukar 「見ろ、見なさい」、エケ ek 「来い、来なさい」）。なお、命令の表現においては、命令する相手を表す人称接辞は付きませんので注意が必要です。例えば、エヌカラ e=nukar 「あなたが見る」という言葉は「見なさい」という命令の表現としては普通用いられません。

「言い聞かせ」のような命令の表現には、ハニ hani という終助詞が用いられます（例：ヌカラ ハニ nukar hani 「見なさいよ」）。

丁寧な命令を表す場合には、ヤン yan という終助詞が用いられます（例：ヌカラ ヤン nukar yan 「ごらんなさい」）。なお、単数と複数の区別がある動詞の場合、ヤンは複数形の動詞の後に付けられます（例：アラキ ヤン arki yan 「来なさい（アラキはエケの複数形）」）。

また、助動詞ナンコロ nankor を用いると「君は～するだろう」という推量の文になりますが、実際には遠まわしな命令の表現として使われます。なお、ナンコロを用いた命令表現では、例外的に命令する相手を表す人称接辞が付けられます。

エヌカン ナンコロ。

e=nukar nankor.

「君は見るだろう → 見なさい」

依頼の表現には、ワ コレ wa kore 「～してください」という言い方が用いられます。なお、ワ コレを用いた依頼表現でも、相手を表す人称接辞は付けられません。しかし、動作の受け手は人称接辞を付けて表現されるので注意が必要です。

ヌカラ ワ エンコレ。

nukar wa en=kore.

「見てください（エン en= は「私を、私に）」

禁止の表現

禁止の表現には、イテキ iteki 「決して～するな」という副詞が用いられます。禁止の表現においても、聞き手を表す人称接辞は付けられません。

イテキ ヌカラ。

iteki nukar.

「見るな」

ステップ 30 「大勢で～する」自動詞の単数・複数

(初級ステップ43、44、47、48参照)

(例文)

1. アペコッチャタ ロクアン マ オカアン。
ape kotca ta **rok=an** wa **oka=an**.
「火の前に (私たちは) 座って (私たちは) いる。」
2. ホクレ リキナアン マシニアン。
hokure **rikip=an** wa sini=an.
「さあ、(私たちは) 上がって (私たちは) 休もう。」
3. 苦小牧 タ エチヤフワ エチアラキ ハウエ？
苦小牧 ta eci=**yap** wa eci=**arki** hawe?
「苦小牧に (君たちは) 上陸して (君たちは) 来たのかい？」
4. クイトフ ホブンパワ アラキ。
kuytop **hopunpa** wa **arki**.
「カモが (複数) 飛んで (複数) 来た」
5. ハチャム アフフワ ロシキ ワ オカ。
hacam **ahup** wa **roski** wa **oka**.
「エゾライチョウが (複数) 入ってきて (複数) 立って (複数) いる」

主語の数で変化する自動詞

アイヌ語では、1人で出かけるときはアラパ arpa、2人以上で出かけるときはパイエ paye という動詞を使います。このように、日本語では同じ「行く」という動詞を使う場面でも、アイヌ語ではまったく形が変わることがあります。前者を「単数形」、後者を「複数形」と呼びます。ただし、すべての動詞にこうした区別があるのではなく、変化の仕方にもパターンがあるので、それに慣れることで習得しやすくなります。

変化のパターン② 単語の末尾が「a、i、u、e、o」→「パ」

単数形が母音で終わっている自動詞の多くは、末尾の母音を「パ」に変えると複数形になります。

シピネ sipine → シピンパ sipinpa ～が身支度をする

ヘトゥク hetuku → ヘトゥクパ hetukpa ～が生える・(月・湧水などが)出る

変化のパターン① 単語の末尾が「ン」→「プ」

次のように、単数形が「ン (n)」で終わっている動詞は、末尾を「プ (p)」に変えると複数形になります。

アフン ahun → アフプ ahup ～が入る

ラン ran → ラプ rap ～が下りる

変化のパターン③ まったく形が変わる

このタイプは覚えてしまうしかありませんが、それほど多くはありません。

ア a → ロク rok ～が座る。

エク ek → アラキ arki ～が来る

例外

例外として、「2つの」や「3つの」、「たくさんの」などの言葉が前につくと、2人以上での行動でも動詞は単数形のままになります。これは方言によっても違いがあります。

トゥセタ エク。「2匹のイヌが来る」

tu seta ek.

プイ ポロンノ ヘトゥク。「エゾノリュウキンカが沢山はえている」

puy poronno hetuku.

ステップ 31 「たくさん～する」他動詞の単数・複数

(初級ステップ43、44、48参照)

(例文)

1. イナウ カンパワ クロシキワ カムイクコオンカミ。
inaw **k=anpa** wa **ku=roski** wa kamuy ku=koonkami.
「木幣をいくつも (私は) 抱えて (私は) 立てて 神に (私は) 拝礼した」
2. タンエモ フライパワ トゥイパワ イチャリオロオマレヤン。
tan emo **huraypa** wa **tuypa** wa icari or omare yan.
「この (いくつかの) イモを洗って切ってザルに入れなさい」
3. ネヅキ オピッタノ アオケレパナ。ホクレ 枝豆 サブテワ スパヤン。
nepki opittano a=**okerpa** na. hokure 枝豆 **sapte** wa **supa** yan.
「仕事を全部 (私たちは) 終わらせたぞ。さあ枝豆を出して茹でて」
4. クサポ ケシト ピリカスケキワ エンコブンパ。
ku=sapo kesto pirka suke ki wa en=**kopunpa**.
「(私の) 姉は毎日おいしく料理をして私に出した」

目的語の数・動作の回数で変化する他動詞

他動詞にも単数形と複数形の区別を持つ物があります。次の文はどちらも「私がイモを洗う」という意味です。

A: エモ クフライエ。emo ku=huraye. 「私はイモを洗った」

B: エモ クフライパ。emo ku=huraypa. 「私はイモを（いくつも）洗った」

A・Bとも主語は同じですが、Aは「洗う」の単数形フライエ、Bは複数形フライパを使っています。この場合、Aは1個のイモを、Bは2個以上のイモを洗ったこととなります。このように、他動詞は目的語が1つか2つ以上であるかによって変化します。

C: クコロ ハポ エンピル。ku=kor hapo en=piru. 「父さんが私を拭いた」

D: クコロ ハポ エンピリパ。ku=kor hapo en=pirpa. 「父さんが私を（何度も）拭いた」

C・Dでは、主語は「父さん」、目的語は「私」でどちらも単数です。Dで、複数形ピリパが使われているのは「何度も拭いた」ことを表しています。このように、他動詞は、動作の回数が1回かそれ以上かによっても変化します。変化のパターンは、自動詞と共通しています。

変化のパターン② 単語の末尾が「a, i, u, e, o」→「パ」

単数形が母音で終わっている他動詞の多くは、末尾の母音を「パ」に変えると複数形になります。

アニ ani → アンパ anpa 「～が～を持つ」

タサ tasa → タシパ taspā 「～が～と交換する」

やや不規則な例として「煮る」があります。複数形はアクセントの位置も変わります。

スウェ suwe → スパ supā 「～が～を煮る」

変化のパターン② まったく形が変わる

このタイプは覚えてしまうしかありませんが、それほど多くはありません。

ライケ rayke → ロンヌ ronnu 「～が～を殺す」

アシ asi → ロシキ rosiki 「～が～を立てる」

ステップ 32 「～して」「～しながら」 接続助詞 1

(初級ステップ69参照)

(例文)

1. クユピ ワッカ タ ワ オンタロ オロ オマレ。
ku=yupi wakka ta **wa** ontaro or omare.
「(私の) 兄さんが水をくんで樽に入れた」
2. ケシト アン コロ フチ ウタラ ケメイキ コロ ウコイタク アイネ アミプ カ
ラ オケレ。
kesto an kor huci utar kemeyki **kor** ukoytak **ayne** amip kar okere.
「お婆さんたちは毎日針仕事をしながらおしゃべりをしてるうちに着物
をしあげた」
3. レ ポン セタ ウケサンパ コロ シノッ。
re pon seta ukesanpa **kor** sinot.
「3匹の子犬が追いかけてこしながら遊んでいる」
4. ヘカッタラ ウカラカラセレ ワ シノッ アイネ サカヨカラ ワ パラパラク。
hekattar ukarkarsere **wa** sinot **ayne** sakayokar **wa** parapararak.
「子どもたちは転げまわって遊んでいるうちにケンカをして泣きだした」
5. クサポ セーター オシケ ワ ポホ ミレ。
ku=sapo セーター oske **wa** poho mire.
「(私の) 姉さんはセーターを編んで子供に着せた」

「～して」「～しながら」などの表現

接続助詞とは、日本語の「～しながら」「～して」のように、前の文と後の文をつなぐ働きをもつ助詞です。接続助詞には前の文と後の文との時間的な関係（「～しながら～する」など）を表すものや、論理的な関係（「～したので～する」など）を表すものなどがあります。この課では主として時間的な関係を表す接続助詞について取り上げます。

アイヌ語では時間的な関係を表す場合、前の文と後の文が前後関係（「～して～する」）にあるのか、それとも同時的な関係（「～しながら～する」）にあるのかによって表現が区別されます。

「～して～する」のような時間的な前後関係を表す場合には、ワ wa 「～して」やテク tek 「～して（東部の方言）」などが使われます。また、「～し続けてその結果」のような意味を表す場合には、アイネ ayne 「～して」、アヒンネ ahinne 「～して（東部の方言）」などが使われます。

一方、「～しながら～する」のような同時的な関係を表す場合は、コロ kor 「～しながら」、カネ kane 「～しながら（東部の方言）」、カン kan 「～しながら（東部の方言）」などが使われます。

ステップ 33 「～なので」「～したら」「～しても」 接続助詞 2

(初級ステップ69参照)

(例文)

1. チセクカンスイ クス、アツパケタ キクチャクスネ。
cise ku=kar rusuy **kusu**, atpaketa ki ku=ca kusune.
「家を（私は）建てたいので、手始めにカヤを（私は）刈ろう」
2. コーヒー エクルスイ ヤクン、ヤイカタ エカラワ エク ヤッカ ピリカワ。
コーヒー e=ku rusuy **yakun**, yaykata e=kar wa e=ku **yakka** pirka wa.
「コーヒーを（君が）飲みたいなら、自分で（君が）入れて（君が）飲んでもいいよ」
3. タネクク クニウセイ クカラクス、エアニカエク ヤッカ ピリカワ。
tane ku=ku **kuni** usey ku=kar kusu, eani ka e=ku **yakka** pirka wa.
「いま私が飲むのにお茶を（私が）入れたから、君も（君が）飲んでもいいよ」
4. モユク クヌカンスイ コロカ、クヌカラ アクス キラ ワイサム。
moyuk ku=nukar rusuy **korka**, ku=nukar **akusu** kira wa isam.
「タヌキを（私は）見たかったけれど、（私が）見たら逃げてしまった」
5. ユツカム アナク オハウ ネ アカラワルルトウラノ アエ コロイヨッタ
ケラアン ペネ。
yukkam anak ohaw ne a=kar wa rur turano a=e **kor** iyotta keraan pe ne.
「シカの肉はスープにして汁と一緒に食べると一番おいしいもんだ」

「～なので」「～したら」「～しても」の表現

この課では主として「～なので（原因・理由）」、「～するために（目的）」、「～すると（条件）」、「～しても（譲歩）」、「～したところが（逆接）」などの表現に用いられる接続助詞について取り上げます。

原因・理由の表現にはクス kusu、クシ kus 「～なので」という接続助詞が用いられます。目的の表現にはクニ kuni、クニネ kunine 「～するために」のほか、クス kusu、クシ kus 「～するために」などが用いられます。

「～すると」（条件）にはヤクン yakun、ヤク yak、チキ ciki、チク cik、コロ kor 「～したら、～すると」などが用いられます。また、「～したところ」のような意味を表わす場合にはアクス akusu、アクシ akus という形が用いられます。

譲歩の表現にはヤッカ yakka、ヤッカイ yakkay 「～しても」、ヒケ hike 「～するのに」などが用いられます。また、逆接の表現にはコロカ korka、コロカイ korkay 「～するけれども」が用いられます。

ステップ 34 「～まで」「～のように」「～なほど」 接続助詞 3

(例文)

1. エエラムアン パクノ エンヌレ。
e=eramuan **pakno** en=nure.
「君が分かるところまで (私に) 聞かせて」
2. コンネ パケ カマカ オッタ クスクプ。
k=onne **pak** カマカ or ta ku=sukup.
「(私が) 老いるまでカマカで (私が) 暮らした」
3. チセ ノシキ パクノ アン ウパシ カ ニンワ、タネ シリパイカラ ノイネ シラン。
cise noski **pakno** an upas ka ninwa, tane sirpaykar **noyne** siran.
「家のかべまでであった雪も消えて、もう春になったような様子だ」
4. カキ チクニセンピリタ ネフカ エ コトム アン。
k=aki cikuni sempir ta nep ka e **kotom** an.
「私の弟は木のかげで何か食べているようだ」
5. クモコロワカンア ペコロ カン。
ku=mokor wa k=an a **pekor** k=an.
「(私は) 寝て (私は) いるような振りをして (私は) いた」
6. チェカントコトロスイエ カネ アン ポロヌプリアン。
cekantokotorsuye **kane** an poro nupuri an.
「天に届きようなほど大きな山がある」

「～まで」「～のように」「～なほど」などの表現

この課では主として「～するほどに（程度）」、「～するように（推定）」、「～するみたいに（比況）」、「～しないで（否定）」、「～である様子で（状態）」などの表現に用いられる接続助詞について取り上げます。

程度の表現にはカネ kane、カン kan「～するほどに」、パク pak、パクノ pakno「～するまで」という接続助詞が用いられます。また、推定の表現にはノイネ noyne「～するように」、コトム kotom「～するように」などが用いられます。比況の表現にはペコロ pekor、ポコン pokon「～するかのよう、～するみたいに」などが用いられます。

また、否定や状態の表現にはノ no「～して」が用いられます。

主な接続助詞の一覧

ワ、アイネ、ヒネ wa, ayne, hine	時間的な前後関係「～して」
コロ kor	同時関係「～しながら」
クス kusu	原因・理由の関係「～するので」
クス kusu	目的の関係「～するために」
ヤクン、ヤク(ネ)、アクス yakun, yak(ne), akusu	条件の関係「～すると」
ヤッカ、ヒケ yakka, hike	譲歩の関係「～しても」
コロカ korka	逆接の関係「～するけれども」
カネ、パク(ノ) kane, pak(no)	程度の関係「～するほど、～するまで」
ノイネ、コトム noyne, kotom	推定の関係「～するように」
ペコロ pekor	比況の関係「～するかのよう」
ノ no	否定・状態の関係「～して」

ステップ 35 「～に行く」 場所の表現 1

(例文)

1. 阿寒 ウンパイェアンマトラサンペアヌカンロ。
阿寒 **un** paye=an wa *torasampe* a=nukar ro.
「阿寒に（一緒に）行ってマリモを（一緒に）見よう」
2. レプ タチプホユプコロアン。
rep ta cip hoyupu kor an.
「沖で船が進んでいる」
3. ラ タリク タウコレコロペヘマンタアン？
ra ta rik ta ukorekor pe hemanta an?
「高い所と低い所で同じ名前を持っているものなんだ？」
4. ニスネワニシ。
nisu newa nis.
「白と空」
5. ウォツ タヤ タウコレコロペヘマンタアン？
wor ta ya ta ukorekor pe hemanta an?
「水中と陸地で同じ名前を持っているものなんだ？」
6. オシネワホシ。
os newa hos.
「オスのサケときゃはん」
7. フナク ワエエクルウエ？
hunak wa e=ek ruwe?
「どこから（君は）きたの？」

～に行く、～の所に行く

アイヌ語では「～に行く」という文を作る際に少し難し事情があります。日本語で「～に行く」動詞を使って文をつくる時、a のようには言えますが、b、c は少しおかしい文です。

- a 学校に行く。(○)
- b 高橋さんに行く。(×) 高橋さんのところに行く。(○)
- c 自転車に行く。(×) 自転車のそばに行く。(○)

「学校」という場所であれば「に行く」を使うことができますが、「高橋さん」という人や「自転車」という物の場合は「に行く」だけでなく「ところ」や「そば」などを補う必要があります。こうした日本語の「～に、～へ」や「～で」にあたる言葉を格助詞と呼びますが、アイヌ語の格助詞も、日本語と同じく場所を表す名詞につきます。

- タ ta 動作の行われる場所・時間、移動を伴う動作の到着点
- ウン un 動作の到着点、動作を行う方向
- ワ wa 時間、移動を伴う動作の起点

場所を表す名詞は、前後左右高低などの位置や、キム「山（山手）」、ピシ「浜（浜手）」、ヤ「陸」、レブ「沖」などの方位や、空間の大きな区分を指す言葉が多く含まれます。チセ「家」やコタン「村」、モシリ「大地、国」などはややあいまいで、場所のようにも物のようにも言い表されます。また、「札幌」「旭川」のような地名は、方言によっては位置を表す名詞として扱われることがあります。

そのほかの多くの名詞は、たとえばペツ「川」やニタイ「林」など日本語の感覚としては場所のように思える言葉であっても、直接「～に」、「～で」をつけることができません。これらの表現については後のステップで紹介します。

ステップ 36 「～に行く」 場所の表現 2

(例文)

1. クコロ ハボ チセ オシマクン アラパワ、ヌサ オッタ オンカミ。
ku=kor hapo cise **osmak un** arpa wa, **nusa or ta** onkami.
「私の父は家の背後に行って、祭壇で拝礼した」
2. エチイペエマカ ソモ キ ヤクン、エチイペ オカケ タ ケーキ エチエ エアシカイ。
eci=ipeemaka somo ki yakun, eci=ipe **okake ta** ケーキ eci=e easkay.
「君たちが好き嫌いをしなければ、(君たちが) 食事した後でケーキを(君たちが) 食べられるよ」
3. トウ モマンペト サム タ サンワシニコロアン。
tu *momampe* to **sam ta** san wa sini kor an.
「2頭のメジカが湖のそばに下りて休んでいる」
4. ペトルン サパン マ ピパウク ヘネ アキロ。
pet or un sap=an wa pipauk hene a=ki ro.
「(一緒に) 川へおりて、カワシンジュガイ採りでも (一緒に) しようか」
5. ウネトコ タ ピリカ ニタイ アンワ、サマ タ ピリカ チセ アシ。
un=etoko ta pirka nitay an wa, **sama ta** pirka cise as.
「私たちの行く手に美しい林があり、そのそばに立派な家が建っている」
6. エンサム タ チャペ モコロワアン。
en=sam ta cape mokor wa an.
「私のそばでネコが寝ている」
7. ハンクチョッチャブ エノッタ エクワ エンカタ レウワアン。
hankucotcap **en=or ta** ek wa **en=ka** ta rew wa an.
「トンボが私の所にきて、私の上にとまっている」
8. インネ ヘカッタラ 電車 オロ ワラン。
inne hekattar 電車 **or wa** ran.
「大勢の子どもたちが電車から降りた」

位置関係を表すことば

格助詞は「前」、「後」のような位置を表す名詞に付きます（格助詞についてはステップ 40 でも触れます）。したがって、「人」や「川」のような普通名詞には直接格助詞をつけることはできません。そこで、普通名詞に格助詞を付ける場合には、位置名詞を付けて、普通名詞＋位置名詞＋格助詞のように表現します（例：ペツ オッタ pet or ta 「川・のところ・で」）。

位置名詞には一部の普通名詞と同様に概念形と所属形の区別があります。例としては、エトク etok 「前（概念形）」・エトコ etoko 「～の前（所属形）」、オシマク osmak 「後（概念形）」・オシマケ osmake 「～の後（所属形）」、オロ or 「場所（概念形）」・オロ oro 「～の場所（所属形）」などがあります。

また、位置名詞には目的格の人称接辞が付きます。

主な位置名詞の一覧

カ、カシ、カシケ ka, kasi, kasike	(接触しているものの) 上
エンカ、エンカシ、エンカシケ enka, enkasi, enkasike	(離れているものの) 上
クルカ、クルカシ、クルカシケ kurka, kurkasi, kurkasike	(広がりのあるものの) 上
チョロボク、チョロボキ、チョロボキケ corpok, corpoki, corpokike	下
エトク、エトコ、エトコホ etok, etoko, etokoho	(動いているものの) 前、(時間的な) 前
コッチャ、コッチャケ kotca, kotcake	(静止しているものの) 前
オカ、オカケ oka, okake	(動いているものの) 後、(時間的な) 後
オシマク、オシマケ osmak, osmake	(静止しているものの) 後
オロ、オロ or, oro	ところ、中
オンナイ、オンナイケ onnay, onnayke	(中空のもの) 中
トウム、トウム、トウムケ tum, tumu, tumke	(中空ではないもの) 中
ソイ、ソイケ soy, soyke	(家の) 外
サム、サマ、サマケ sam, sama, samake	そば、傍ら

「オロ」の使い方

「前」、「後」のような位置名詞のなかで、オロ or 「場所」という言葉は、「人」、「川」のような普通名詞の後でよく用いられます。例としてはオッタ or ta 「～に、～で」、オルン or un 「～へ」、オロワ or wa 「～から」などの表現があります。

ステップ 37 「～の上を」「～の中に」 場所に関わる動詞

(例文)

1. プクサクフンパワ、ワッカトゥラノ ス オロ コマレ。
pukusa ku=humpa wa, wakka turano **su or k=omare**.
「ギョウジャンニクを（私は）刻んで、水といっしょに鍋に（私は）入れた」
2. ポロ 飛行機 コタン エンカ クシワ アラパ。
poro 飛行機 kotan **enka kus** wa arpa.
「大きな飛行機が村の上を通りすぎて行った」
3. シアツカ イウオロ ソ クルカ エホユブ。
siapka **iwor so kurka ehoyupu**.
「大きなオスジカが狩り場の上を走る」
4. ケナシ ソ カ シンルシ ウシ。
kenas so ka sinrus **us**.
「林の一面にコケがはえている」

場所を目的語にする動詞

動詞の中には「前」、「後」のような場所を表す名詞を目的語としてとる動詞があります。その多くは対象が存在することを表す動詞です。例としては、ウン un 「～にある、いる」、ウシ us 「～に付く」、オマ oma 「～に入る」、オ o 「～に位置する、入る」などの動詞があります。

主な場所目的語動詞の一覧

オマ	oma	～（場所）にある、～（場所）におさまる
オ	o	～（場所）にある、～（場所）に入る
ウン	un	～（場所）にある、いる
ウシ	us	～（場所）に付く
オッ	ot	～（場所）に掛かる
クシ	kus	～（場所）を通る

ステップ 38 「私のおじいさん」「私のおばあさん」 親族名称

(初級ステップ74参照)

(例文)

1. クコロ エカシ ユカラクルネ。 クコロ フチ ケメイキ エアシカイ。
ku= kor ekasi yukarkur ne. **ku=kor huci** kemeyki easkay.
「私のおじいさんは yukar の語り部です。 私のおばあさんは針仕事が上手です」
2. エカシ、エレキクトウイエ ヤッカ ピリカ? フチ、エシヌイエ ヒタ
ソモ エシトマ?
ekasi, e=reki ku=tuye yakka pirka? **huci**, e=sinuye hi ta somo e=sitoma?
「じいちゃん、(君の) ひげ切ってもいい? ばあちゃん、(君が) 入れ墨
するとき怖くなかった?」
3. クヌフ ホシキ パタ アイヌレ コロ。 コナハ シサム ネ コロカ アイヌイタク
カ エラムアン。
k=unuhu hoski pa ta aynure kor. **k=onaha** sisam ne korka aynuitak ka
eramuan.
「(私の) 母は昨年アイヌ語の名前を持ちました。(私の) 父は日本人で
すがアイヌ語もわかります」
4. トット、タントクメライケ。 ハボ、トペンペアン?
totto, tanto ku=merayke. **hapo**, topenpe an?
「かあさん、今日は (私は) 寒いよ。 とうさん、おかしある?」

ク～とクコロ～ (所属形と概念形)

家族の言い方には、体の一部のように名詞を「～の○○」という形 (所属形) に変化させて人称接辞をつけるタイプと、もとの形 (概念形) のまま「人称接辞+ kor ○○」とするタイプがあります。年下の家族はたいてい kor を使わない形で呼びます。例として「ク ku=(私の)」をつけた形を一覧にしました。() 中の音は省略しても意味は同じです。

親族名称は方言差も大きく、どのように使えばいいのか不明な場合もたくさんあります。千歳とよく似た沙流方言では「にいさん」や「ねえさん」に2通りの言い方があり、「ク ku=」以外の人称では「人称接辞+ kor ○○」の形を使うことが分かっています。どうしても使い方が分からない言葉は、千歳と沙流のように似た特徴を持つ方言のやり方を応用することも考えられます。

呼びかけのとき

下の一覧のなかで、ひらがなで書いたものは呼びかけに使うことが出来る言葉です。korを使わない言葉は、クマチリペ ku=macirpei 「いもうとよ」、クユポ ku=yupo 「にいさん」などのように人称接辞をつけた形で呼びかけます。korを使う言葉は、アチャポ acapo 「おじさん」のように kor も人称接辞もつけずに呼びかけます。漢字で書いたものは、その家族について客観的に話すための表現で、呼びかけには使えません。

「私の～」親族名称一覧

おじいさん	クコロエカシ ku=kor ekasi	おとうと	カキ (ヒ) k=aki (hi)
おばあさん	クコロフチ ku=kor huci	おじさん	クコロアチャポ ku=kor acapo
親	ケプイケ (ヘ) k=epuyke (he)	おばさん	クコロウナラペ ku=kor unarpe
おとうさん	クコロハポ ku=kor hapo	こども	クポ (ホ) ku=po (ho)
おかあさん	クコットット ku=kor totto	むすこ	クポ (ホ) ku=po (ho) クコロポイソン ku=kor poyson
父	コナ (ハ) k=ona (ha)	むすめ	クマツネポ (ホ) ku=matnepo (ho)
母	クヌ (フ) k=unu (hu)	夫	クホク (フ) ku=hoku (hu)
にいさん	クユポ ku=yupo ※コロユポ =kor yupo	妻	クマチヒ ku=maci (hi)
兄	クユピ (ヒ) ku=yupi (hi)	婿	クココウエヘ ku=kokowe (he)
ねえさん	クサポ ku=sapo ※コロサポ =kor sapo	嫁	クコシマチ (ヒ) ku=kosmaci (hi)
姉	クサ (ハ) ku=sa (ha)	おい	クカラク (フ) ku=karku (hu)
いもうと(姉から)	クマタキ (ヒ) ku=mataki (hi)	めい	クマツカラク (フ) ku=matkarku (hu)
いもうと(兄から)	クマチリペ (ヘ) ku=macirpe (he)	まご	クミッポ (ホ) ku=mippo (ho)

※「私の～」というとき以外は「～ kor～」の形になります。

ステップ 39 いろいろな動詞 自動詞・他動詞・複他動詞

(例文)

1. イルプ レタラ。
irup **retar**.
「でんぷんが白い」
2. アヤイ チシ。
ayay **cis**.
「赤ん坊が泣く」
3. マッカチ ムツクル レクテ。
matkaci *mukkur* **rekte**.
「女の子が口琴を鳴らす」
4. ウナラペ ケトウシ セ。
unarpe ketusi **se**.
「おばさんがカバンを背負う」
5. ムツクル クレクテ。
mukkur **ku=rekte**.
「口琴を (私が) 鳴らす」
6. ウナラペ ホクフ ケトウシ セレ。
unarpe hokuhu ketusi **sere**.
「おばさんが夫にカバンを背負わせる」

自動詞 (1 項動詞)

これまでのステップでも自動詞や他動詞という言葉が出てきました。これらの違いは、簡単に言えばいくつ名詞と結びついて文として落ちつくかということです。動詞が名詞と結びつくことを、文法解説では「動詞が名詞を取る」と表現することもあります。自動詞は1つの名詞と結びつき、この名詞が主語(動作を行うもの)になります。

アマムボキキリ ホッケ。amampokikir hotke. 「キリギリス」が横になる」

イトウンナブ モンライケ。itunnap monrayke. 「あり」が働く」

この例のように、自動詞の前には空の箱が1つあって「が働く」のような格好になっているとイメージしてください。この箱には主語にあたる名詞が入ります。このように1つの言葉と結びつくことから「1項動詞」という呼び方もあります。重要なポイントとして、主語が複数のときは人称接辞が後ろにつくことを学びました。ステップ 16、17 を確認してください。

他動詞 (2 項動詞)

他動詞は主語の他にもう1つの名詞と結びつき、これが目的語(動作の対象になるもの)になります。

アマムボキキリ シノッチャ キ。amampokikir sinotca ki. 「キリギリス」が歌を歌う」

イトウンナブ ニカオブルラ。itunnap nikaop rura. 「あり」が木の実を運ぶ」

このように、他動詞の前には、主語の箱に加えてもうひとつ目的語の箱があるとイメージしてください。箱が2つあるので、「2項動詞」と呼ぶこともあります。他動詞と自動詞の区別にそれほどこだわらない言語もありますが、アイヌ語の場合は両者の区別がかなり厳密に守られます。

日本語では、主語に「～は、～が」を、目的語は「～を、～に」といった助詞をつけて表しますが、アイヌ語では助詞を用いません。主語・目的語の順に並ぶのが普通ですが、そうないなくとも、どちらが主語・目的語かは話の流れでわかります。

複他動詞 (3 項動詞)

主語、目的語の他にもう1つ目的語を取る動詞があります。これを複他動詞(3項動詞)と呼びます。人称接辞のつき方は他動詞と同じです。

エカシ ネ りんご チカプ エレ。ekasi ne りんご cikap ere.

「お爺さん」はそのりんごを鳥に食べさせた」

ステップ40 「～へ」「～から」「～でもって」 いろいろな格助詞

(例文)

1. クホシピエトコタ、郵便局ウンカラパ。
ku=hosipi etoko **ta**, 郵便局 **un** k=arpa.
「(私が) 帰る前に、郵便局に (私が) 行く」
2. ル トゥラシ トウ アチャポ アブカシ。
ru **turasi** tu acapo apkas.
「道にそって 2人のおじさんが歩いている」
3. 色鉛筆 アニ パシクル ノカ ヌイエ。
色鉛筆 **ani** paskur noka nuye.
「色鉛筆でカラスの絵を描いた」
4. タン チェフカフケレ ネ カラワ エンコレヤン。
tan cepkap ker **ne** kar wa en=kore yan.
「この魚皮を靴に作ってください」
5. トオレフワ フンペ エクワ オシ レブンカムイ カ エク。
too rep **wa** humpe ek wa **os** repunkamuy ka ek.
「ずっと沖の方からクジラがやって来ていてあとからシャチもやって来
ている」

「～へ」「～から」「～でもって」などの表現

日本語の「て、に、を、は」のように、名詞の後に置かれてその名詞の文法的な役割を示す言葉を格助詞といいます。代表的な格助詞（後置詞）を以下にあげます。

タ	ta	～に、～で（場所・到着点）
ウン	un	～へ（方向）
ペカ	peka	～で、～を（広い場所）
ワ	wa	～から（起点）
トゥラシ	turasi	～に沿って上流へ
ペシ	pes	～に沿って下流へ
オシ	os	～の後から
トゥラ	tura	～と共に
アニ	ani	～で、～を用いて（道具・手段）
ネ	ne	～として、～に

ステップ 41 「～も」「～だけ」 いろいろな副助詞

(例文)

1. シケレペ カ ニヌム カ シカリ。
sikerpe **ka** ninum **ka** sikari.
「キハダの実もクルミの実も丸い」
2. ソンパ ヌム アナクネ ソンパヌ。
somp num **anakne** sompanu.
「ソバの実は三角である」
3. シュークリーム パテク クホニ シク パクノ ケルスイ。
シュークリーム **patek** ku=honi sik pakno k=e rusuy.
「シュークリームばかり（私の）おなかがいっぱいになるまで（私は）
食べたい」
4. フンナ タブ シノツチャキ ハウエ アン？
hunna **tap** sinotcaki hawe an?
「いったいだれが歌っているんだ？」
5. 義理チョコ ポカ エチコレクスネワ。
義理チョコ **poka** eci=kore kusune wa.
「義理チョコだけでも（私が君に）あげましょう」

「～も」「～だけ」などの表現

日本語の「～も」「～だけ」のように、他の単語の後に置かれて、その単語を取り立てる役割をもつ言葉を副助詞といいます。主な副助詞としては以下のようなものがあります。

アナク(ネ)	anak(ne)	～は (主題)
ヘネ	hene	～でも (例示)
ヘム	hem	～も (列挙)
カ	ka	～も (追加)
パテク	patek	～ばかり (限定)
タクフ	takup	～だけ (否定的な限定)
パク(ノ)	pak(no)	～まで (限度)
ポカ	poka	～だけでも (限定)
タフ	tap	～こそ (強調)
タシ	tasi	～こそ (強調)

ステップ 42 「～かい?」「～だよ」文の終わりにつく言葉

(初級ステップ75参照)

(例文)

1. クコロウナラペス ポプナ。スヤプテヤン。
ku=kor unarpe su pop na. su yapte yan.
「(私の) おばさん鍋がわいたよ。鍋をあげてくださいな」
2. ナフワ。ナポンノスウェハニ。
na hu wa. na ponno suwe hani.
「まだ生だよ。もう少し煮なさいね」
3. ヘカッタラホシッパエトコタアмамクスウェソ。
hekattar hosippa etoko ta amam ku=suwe so.
「子どもたちが帰ってくる前にごはんを(私は)炊いちゃおうっと」
4. ペカンペアエアムキリヤ?
pekanpe a=e amkir ya?
「ペカンペを(あなたは)召しあがったことがありますか?」
5. 車アオワスーパーウンパイエアンロ。
車 a=o wa スーパー un paye=an ro.
「車に(一緒に)乗ってスーパーに(一緒に)行こうか」

「～かい?」「～だよ」などの表現

「いい天気だね」の「ね」、「いいか?」「いいよ」の「か」や「よ」のように、文の最後におかれて、疑問や命令、確認などの意味を表わす言葉を終助詞といいます。主な終助詞としては以下のようなものがあります。

ナ	na	～だぞ (聞き手への促し)
ワ	wa	～よ (質問に対する答え)
ソ	so	～ (しよう) かな (意志)
ハニ	hani	～ね (言い聞かせ・念押し)
ヤン	yan	～しなさい (複数・丁寧な命令)
ロ	ro	～しよう (勧誘)
ヤ	ya	～か (疑問)
ウン	un	～よ (質問に対する答え)

なお、ヤン yan 「～しなさい」は複数形の動詞とともに使われ、2人以上の相手への命令、または丁寧な命令を表します (例：アラキ ヤン arki yan 「来なさい」)。また、最後のウン un 「～よ」は主に名詞の後で用いられます。

ステップ 43 「～した」「～しすぎた」 いろいろな助動詞

(例文)

1. トアンヌプリクコロエカシノミアヌプリネナンコロ。
toan nupuri ku=kor ekasi nomi a nupuri ne **nankor**.
「あの山は私のおじいさんがいのっていた山だろう」
2. エカシネクニクラムアワ、フチネアナン。
ekasi ne kuni ku=ramu awa, huci ne **anan**.
「おじいさんと（私は）思っていたら、お婆さんだったのだ」
3. ヌマンカタントカクモコロカスワクネイワイペケカソモキ。
numan ka tanto ka ku=mokor **kasu** wa kuneywaipe k=e ka somo ki.
「昨日も今日も（私が）寝過ぎて朝食を（私は）食べなかった」
4. マタピシノフレコソソテミエカシエ克蘭ケ。
mata pisno hurekosonte mi ekasi ek **ranke**.
「冬ごとに赤い着物を着たおじいさんがやってくる」
5. タンパクククルスイコロカ、タントメアネクスクソイネカエトランネワカン。
tanpaku ku=ku **rusuy** korka, tanto mean kusu ku=soyne ka **etoranne** wa k=an.
「たばこを（私は）吸いたいけれど、今日は冷えているので（私は）外に出る気になれないで（私が）いる」

「～したい」「～できる」などの表現

「～したい」「～できる」のように、動詞の後におかれて、時間、推量、意志、能力などの意味を表わす言葉を助動詞といいます。主な助動詞としては、以下のようなものがあります。

ア	a	～した (完了)
ロク	rok	～した (完了・複数形)
アナン	anan	～したのだった (事実の確認)
ニサ	nisa	～したばかりだ
オケレ	okere	～し終える
ランケ	ranke	何度も～する
カネ	kane	～するほど (程度)
カス	kasu	～しすぎる
カシパ	kaspa	～しすぎる (複数形)
ナンコロ	nankor	～するだろう (推量)
ルスイ	rusuy	～したい (願望)
エアシカイ	easkay	～できる
エアイカフ	eaykap	～できない
エトコイキ	etokoyki	～するところである
エトクシ	etokus	～しようとする
エトランネ	etoranne	～する気がしない
コパン	kopan	～するのを嫌がる
ヌクリ	nukuri	気がすすまない
コヤイクシ	koyaykus	(苦しくて) ～できない
クニ	kuni	～するべきである

また、動詞と「～した」を表すア a やロク rok を繰り返すことで「何度もする」「～し続ける」という意味を表わすことができます。

例：トウシテクアナ トウシテクアナ。tustek=an a tustek=an a.

「私たちは黙り続けて」

イオマフロク イオマフロク。i=omap rok i=omap rok.

「(事あるごとに) 私をかわいがった」

なぞなぞの答え

ステップ 6	①	イクシペ	ikuspe	柱
	②	ウエンムカラ	wenmukar	よくない斧
ステップ26	①	タラ	tar	背負い縄
	②	エチンチンパ	ecincinpa	切り株

「ちとせのアイヌ語」「初級アイヌ語—千歳—」「中級アイヌ語—千歳—」

単語リスト

*略語一覧

名：名詞、代名：代名詞、完動：完全動詞、自：自動詞、他：他動詞、副：副詞、連体：連体詞、疑問：疑問詞、間投：間投詞、接続：接続詞、助動：助動詞、格助：格助詞、副助：副助詞、終助：終助詞、接助：接続助詞、人接：人称接辞

ア a ～した【助動】(過去であることを表す)	アッカリ akkari 越える【他】、～より【副】
ア a 座る【自】(ロク rok の単数形)	アッケテッ akketek ホタテガイ【名】
ア a= (聞き手を含む) 私たちが、あなたが、誰かが、(引用文中の) 私が【人接】(他動詞につく形)	アットウシ attus アットウシ(男性の着物)【名】
アイヌ aynu 人間【名】	アツパケタ atpaketa はじめに【副】
アイヌイタク aynuitak アイヌ語【名】	アトウイ atuy 海【名】
アイヌコロ aynukor 大事にする【他】	アナク anak ～は【副助】
アイヌレ aynure アイヌ語の名前【名】	アナクネ anakne ～は【副助】
アイネ ayne ～して【接助】	アナン anan ～したのだった【助動】
アウ aw 隣り【名】	アニ ani ～を用いて【格助】
アキ aki 弟【名】(アク ak の所属形)	アニ ani 持つ【他】(アンバ anpa の単数形)
アキヒ akihi 弟【名】(アク ak の所属形)	アハ aha ヤブマメ【名】
アク ak 弟【名】	アツカシ apkas 歩く【自】
アクシ akus ～すると【接助】	アツト apto 雨【名】
アクス akusu ～すると【接助】	アプニタラ apunitara おだやかである【自】
アクツ akup 飲み物【名】	アフフ ahup 入る【自】(アフン ahun の複数形)
アシ=as (聞き手を含まない) 私たちが【人接】(自動詞につく形)	アフン ahun 入る【自】(アフフ ahup の単数形)
アシ as 立つ【自】(ロシキ rosiki の単数形)	アプンノ apunno おだやかに【副】
アシカイ askay 上手である【自】	アペ ape 火【名】
アシカイクル askaykur 上手である人【名】	アベアリ apeari 火をたく【自】
アシクネ asikne 五つの【連体】	アペクル apekur 火にあたる【自】
アシケベチ askepeci 指【名】(アシケベツ askepet の所属形)	アペフチ apehuci 火の神【名】
アシケベチヒ askepecihi 指【名】(アシケベツ askepet の所属形)	アマム amam 穀物【名】
アシケベツ askepet 指【名】	アミヒ amihi 爪【名】(アム am の所属形)
アシリ asir 新しい【自】	アミツ amip 着物【名】
アシンノ asinno 新しく【副】	アム am 爪【名】
アチャ aca おじ(伯父、叔父)【名】	アムキリ amkir ～したことがある【他】
アチャポ acapo おじさん【名】	アムシベ amuspe カニ【名】
	アヤイ ayay 赤子【名】
	アヤポ ayapo (驚いた時の表現)【間投】
	アラ ar 全く【副】
	アラ ar 片側の【連体】

アラカ arka 痛い【自】
 アラカシ arkas 片小屋【名】
 アラキ arki 来る【自】(エク ek の複数形)
 アラソケ arsoke 向かいの座【名】
 アラパ arpa 行く【自】(パイエ paye の単数形)
 アラワン arwan 七つの【連体】
 アリ arī ~と(引用)【副助】
 アリキキ arikiki 一生懸命にする【自】
 アリキキノ arikikino 一生懸命に【副】
 アレ are ~に火をつける【他】
 アワ awa ~するところが【接助】
 アン=an (聞き手を含む) 私たち、あなたが、誰かが、
 (引用文中の)私【人接】(自動詞につく形)
 アン an ある、いる【自】(オカ(イ) oka (y) の単数形)
 アン an= (聞き手を含む) 私たちが、あなたが、誰か
 が【人接】(他動詞につく形)
 アンチカラ ancikar 晩【名】
 アンパ anpa 持つ【他】(アニ ani の複数形)
 イ= (聞き手を含む) 私たちを(に)、誰かを(に)【人接】
 イウオロ iwor 狩り場【名】
 イエ ye 言う【他】
 イカクシテブ ikakustep 上着【名】
 イカラカラ ikarkar 刺繍する【自】
 イキ iki する【自】
 イクシベ ikuspe 柱【名】
 イクパスイ ikupasuy 捧酒籠【名】
 イケ ike ~なのに【接助】
 イサ isa 医者【名】
 イサニシパ isanispa 医者【名】
 イサム isam 無い【自】
 イシトマ isitoma 恐ろしい【自】
 イセポ isepo ウサギ【名】
 イソボ isopo ウサギ【名】
 イタオマチブ itaomacip 板綴舟【名】
 イタク itak 話す【自】
 イタソ itaso 板の床【名】
 イチャリ icari ざる【名】
 イッケウ ikkew 腰【名】
 イッケウエ ikkewe 腰【名】(イッケウ ikkew の所属形)
 イッケウエへ ikkewehe 腰【名】(イッケウ ikkew の所
 属形)
 イテキ iteki 決して~するな【副】
 イノウ inaw 木幣【名】
 イノウケ inawke 木幣を削る【名】
 イナウル inawru 削りかけ【名】
 イヌ inu 聞く【自】
 イネ ine 四つの【名】
 イピシキ ipiski 数える【自】
 イブ ip (音節を整える言葉)【虚辞】
 イペ ipe 食べる【自】、食物、食事【名】
 イペエマカ ipeemaka 好き嫌いをする【自】
 イペルスイ iperusuy 空腹である【自】
 イペルスイカムイ iperusuykamuy イペルスイカムイ(空
 腹の神) 空腹【名】
 イミ imi 着物【名】
 イヤイライケレ iyayraykere ありがとう【間投】
 イヨッタ iyotta 最も【副】
 イヨハイ iyohay (驚きの表現)【間投】
 イラマンテ iramante 狩りをする【自】
 イラムキッタ iramkitta (驚いた時の表現)【間投】
 イラヤッパ irayapka (感心した時の表現)【間投】
 イランカラッテ irankarapte こんにちは【間投】
 イリワッ irwak 兄弟【名】
 イルカイ irukay しばらく【副】
 イルシカ iruska 怒る【自】
 イルブ irup 澱粉【名】
 イワニ iwani アオダモ【名】
 イワン iwan 六つの【連体】
 イワンケ iwanke 元気である【自】
 インカラ inkar 見る【自】
 インキアン inkian どちらの【疑問】
 インネ inne 多い【自】
 ウイナ uyna 取る【他】(ウク uk の複数形)
 ウウエカラパ uwekarpa 集る【自】
 ウウエサイネ uwesayne 輪になる【自】
 ウウエネウサラ uwenewsar 語りあう【自】
 ウウエベケレ uwepeker 散文説話【名】
 ウェニマキ wenimaki 悪い歯【名】

ウエン wen 悪い【自】
ウエンノ wenna ひどく【副】
ウエンムカラ wenumkar よくない斧【名】
ウオロ wor 水【水】
ウカラカサレ ukarkarsere 一緒に転げ回る【自】
ウク uk 取る【他】(ウイナ uyna の単数形)
ウ克蘭 ukuran 昨晚【名】
ウケサンパ ukesanpa 追いかけてこをする【自】
ウコイキレ ukoykire 争わせる【他】
ウコイタク ukoytak 話しあう【自】
ウコウトウル ukouturu 互いの間【名】
ウコエクッコ ukoeokutkor (重ねた着物の上に) 帯をしめる【他】
ウコタブ ukotapu 丸める、たたむ【他】
ウコトウスク ukotusuk 互いに綱を引く【自】
ウコハウプニ ukohawpuni 一緒に騒ぐ【自】
ウコボイエ ukopoye 混ぜる【他】
ウコレコ ukorekor 同じ名前を持つ【自】
ウシ us へに付いている、へにある、いる【他】
ウシ us 消える【自】
ウシカ uska 消す【他】
ウシケ uske 場所【名】
ウセイ usey 湯【名】
ウタラ utar 人々、へたち【名】
ウトウシマク utusmak 競争する【自】
ウトウラノ uturano 一緒に【副】
ウトウル utur 間【名】
ウナラベ unarpe おば(叔母、伯母)【名】
ウニ uni 家【名】
ウヌカラ unukar 会う【自】
ウヌフ unuhu 母親【名】
ウノシパ unospa 互いを追いかける【自】
ウバシアイヌ upasaynu 雪だるま【名】
ウバシ upas 雪【名】
ウバシケ upaske 雪かきをする【自】
ウバシケツ upaskep 雪かき【名】
ウフイヌブリ uhuyunupuri 樽前山(地名)【名】
ウツソロ upsoro 内部【名】
ウランラン uranran 霧がかかる【自】

ウレ ure 足【名】
ウレヘ urehe 足【名】(ウレ ure の所属形)
ウレベチヒ urepecihi 足の指【名】(ウレベツ urepet の所属形)
ウレベツ urepet 足の指【名】
ウワ uwa 知らない【間投】
ウン un へにある、いる【他】
ウン un へへ【格助】
ウン un 【終助】
ウン un= あなたが私たちを、あなたが私たちに【人接】
ウン un= 私たちを、私たちに【人接】
エ e 食べる【他】
エ e= あなたが【人接】
エ e= あなたを、あなたに【人接】
エアイカフ eaykap できない【他】
エアク eak 射る【他】
エアシカイ easkay できる【他】
エアニ eani あなた【代名】
エイコシ eykos あまりに【副】
エイコシテッコ eykostekko あまりに【副】
エイワンケ eywanke 用いる【他】
エウン eun へへ【格助】
エオリパク eoripak 敬う【他】
エカシ ekasi おじいさん【名】
エカラ ekar へで作る【他】
エキムネ ekimne 山に行く【自】
エキムン ekimun 山へ【副】
エキロラン ekiroran へで楽になる【他】
エック ek 来る【自】(アラキ arki の単数形)
エケウトウムシノチタラ ekewtumsinocitara へで心が楽しくなる【他】
エコタ ekota への方へ【格助】
エシナ esna くしゃみをする【自】
エシノツ esinot へで遊ぶ【他】
エシキラブ esirkirap 心配する【他】
エシン esin さつき【副】
エチ eci= あなたたちが【人接】
エチ eci= あなたたちを、あなたたちに【人接】
エチ eci= 私(たち)があなた(たち)を、私(たち)

があなた (たち) に【人接】
 エチウカ *eciwka* 待つ【他】
 エチオカ *ecioka* あなたたち【代名】
 エチンケ *ecinke* カメ【名】
 エチンチンパ *ecincinpa* 切り株【名】
 エテウン *eteun* こちらへ【副】
 エトウ *etu* 鼻【名】
 エトウク *etuk* 突き出る【自】
 エトウフ *etuhu* 鼻【名】(エトウ *etu* の所属形)
 エトウプイェヘ *etupuyehe* 鼻の穴【名】(エトウプイ *etupuy* の所属形)
 エトウン *etun* 借りる【他】
 エトク *etok* (動いているものの) 前、(時間的な) 前【名】
 エトコ *etoko* (動いているものの) 前、(時間的な) 前【名】
 (エトク *etok* の所属形)
 エトランネ *etoranne* ~するのを嫌がる【他】
 エトロ *etor* 鼻水【名】
 エトロ *etor* 鈴【名】
 エネ *ene* このように【副】
 エパウシ *epausi* 頭にかぶる【他】
 エピッタ *epitta* 一面に【副】
 エブンキネ *epunkine* 守る【他】
 エベツペツケフ *epetpetkep* イカ【名】
 エホユブ *ehoyupu* ~で走る【他】
 エミナ *emina* 笑う【他】
 エムシ *emus* 刀【名】
 エモ *emo* イモ【名】
 エモコ *emokor* ~で眠る【他】
 エヤツキリ *eyapkir* 投げる【他】
 エラマス *erasasu* 好む【他】
 エラマン *eraman* 知る、理解する【他】
 エラムアン *eramuan* 知る、理解する【他】
 エラムシカリ *eramuskari* 知らない、~したことがない【他】
 エレ *ere* 食べさせる【他】
 エン *en=* あなたが私を、あなたが私に【人接】
 エン *en=* 私を、私に【人接】
 エンカ *enka* (離れた) 上【名】
 オオ ~に入る、~にある【他】
 オアラリサム *oararisam* まったく無い【自】
 オイラ *oyra* 忘れる【他】
 オウカラリ *oukarari* ~のまわりで【副】
 オカ *oka* (動いているものの) 後、(時間的な) 後【名】
 オカ *oka* ある、いる【自】(アン *an* の複数形)
 オカイ *okay* ある、いる【自】(アン *an* の複数形)
 オカケ *okake* (動いているものの) 後、(時間的な) 後【名】(オカ *oka* の所属形)
 オカリ *okari* ~のまわりに【副】
 オクイマ *okuyma* 小便する【自】
 オクストウフ *oksutuhu* 首すじ【名】
 オケレ *okere* 終える【他】(オケレパ *okerpa* の単数形)
 オケレパ *okerpa* 終える【他】(オケレ *okere* の複数形)
 オシ *os* 雌のサケ【名】
 オシ *osi* ~の後から【副】
 オシケ *oske* 中【名】
 オシマ *osma* ぶつかる【他動】
 オシマク *osmak* (静止しているものの) 後【名】
 オシマケ *osmake* (静止しているものの) 後【名】(オシマク *osmak* の所属形)
 オスラ *osura* 捨てる、投げ出す【他】(オスルパ *osurpa* の単数形)
 オスルパ *osurpa* 捨てる、投げ出す【他】(オスラ *osura* の複数形)
 オソロ *osor* 尻【名】
 オソロ *osoro* 尻【名】(オソロ *osor* の所属形)
 オソロホ *osoroho* 尻【名】(オソロ *osor* の所属形)
 オタ *ota* 砂【名】
 オット *ot* ~に(集団で)ある、いる【他】
 オッカヨ *okkayo* 男性【名】
 オトウワシ *otuwasi* 頼りにする【他】
 オトピ *otopi* 髪の毛【名】(オトプ *otop* の所属形)
 オトピヒ *otopihi* 髪の毛【名】(オトプ *otop* の所属形)
 オトフ *otop* 髪の毛【名】
 オナウタラ *onautar* 父親たち【名】
 オナウタリ *onautari* 父親たち【名】(オナウタラ *onautar* の所属形)
 オナハ *onaha* 父親【名】
 オヌマニペ *onumanipe* 夕食【名】

オハウ ohaw 汁【名】
 オピッタ opitta すべて【副】
 オピッタノ opittano すべてに【副】
 オマナン omanan 歩き回る【自】(パイェカイ payekay
 の単数形)
 オマフ omap 可愛がる【他】
 オマレ omare 入れる【他】
 オマン oman 行く【自】(パイェ paye の単数形)
 オムケカラ omkekar 風邪をひく【自】
 オヤパ oyapa 来年【名】
 オラノ orano それから【接続】
 オレバシ orepasi 沖から【副】
 オロ or ところ、中【名】
 オンカミ onkami 拝礼する【自】
 オンタロ ontaro 樽【名】
 オンネ onne 大きい【自】
 オンネ onne 年老いる【自】
 カ ka ～か【終助】
 カ ka ～も【副助】
 カ ka 糸【名】
 カ ka 上【名】
 カイ kay ～も【副助】
 カイ kay 背負う【他】
 カエカ kaeka 糸を作る【自】
 カシパ kaspera ～しすぎる【助動】(カス kasu の複数形)
 カス kasu ～しすぎる【助動】(カシパ kaspera の単数形)
 カスイ kasuy 手伝う【他】
 カタク katak 糸玉【名】
 カツケマツ katkemat 婦人【名】
 カニ kani 私【代名】
 カネ kane ～して【接助】～するほど【助動】～であ
 るほど【副助】
 カパッチリ kapatcir タカ【名】
 カバト kapato コウホネ【名】
 カミアシ kamiasi 化物【名】
 カムイ kamuy クマ【名】
 カムイ kamuy 神【名】
 カラ kar 作る【他】
 カラク karku おい【名】
 カルシ karus キノコ【名】
 カンナ kannu また【副】
 キ ki する【他】
 キ ki 萱【名】
 キサラ kisar 耳【名】
 キサラハ kisaraha 耳【名】(キサラ kisar の所属形)
 キサルンペ kisarunpe 耳飾り【名】
 キナ kina ガマ【名】
 キツナイケシ kip nuykes 助ける【他】
 キム kim 山【名】
 キムンカムイ kimunkamuy クマ【名】
 キヤイ kiyay 光り【名】
 キヤンネポ kiyannepo 年長の子【名】
 キラ kira 逃げる【自】
 ク ku 飲む【他】
 ク ku= 私が【人接】
 クイトツ kuytop カモ【名】
 クシ kus ～なので、～するために【接助】
 クス kusu ～なので、～するために【接助】
 クスウェッ kusuwep キジバト【名】
 クナウ kunaw フクジュソウ【名】
 クナク kunak ～と【副助】
 クニ kuni ～するように【接助】～するべきである【助
 動】～すべきこと【名】
 クネイワ kuneywa 朝【副】
 クネイワイペ kuneywaipe 朝食【名】
 クババ kupapa かみつく【他】
 クル kur 人、影【名】
 クルカ kurka (広い面の)上【名】
 クレ kure 飲ませる【他】
 クンネ kunne 黒い【自】
 ケイキ keyki ひぎの裏【名】
 ケイキヒ keykihi ひぎの裏【名】(ケイキ keyki の所属形)
 ケウエリ keweri 背が高い【名】
 ケウトウム kewtum 心【名】
 ケシト kesto 毎日【名】
 ケトウシ ketusi ケトウシ(女性の物入れ)【名】
 ケナシ kenas 林【名】
 ケマ kema 足【名】

ケマハ kemaha 足【名】(ケマ kema の所属形)
 ケメイキ kemeyki 針仕事をする【自】
 ケラアン keraan おいしい【自】
 ケレ ker 履物【名】
 ケレ kere 触る【他】
 コイキ koyki 捕る【他】
 コウエペケンヌ kowepekennu ～に尋ねる【他】
 コエッ koek ～に来る【他】
 コオンカミ koonkami ～に拝礼する【他】
 コシネウエ kosinewe ～に訪問する【他】
 コシレバ kosirepa ～に着く【他】
 コソンテ kosonte 小袖、着物【名】
 コタヌ kotanu 村【名】(コタン kotan の所属形)
 コタン kotan 村【名】
 コタンコロ kotankor 住む【自】
 コッカ kokka 膝【名】
 コッカサパハ kokkasapaha 膝頭【名】
 コッコトノ kokkotono 警察官【名】
 コッチャ kotca (静止しているものの)前【名】
 コッチャケ kotcake (静止しているものの)前【名】(コッ
 チャ kotca の所属形)
 コトム kotom ～するように【接助】
 コトロ kotor 表面【名】
 コトロ kotoro 表面【名】(コトロ kotor の所属形)
 コブンテッ kopuntek 喜ぶ【他】
 コブンパ kopunpa 差し出す【他】(コプニ kopuni の複
 数形)
 コヤタツケ koyatke 腹が鳴る【自】
 コラチ koraci ～のように【副】
 コレ kore 与える、くれる【他】
 コロ kor ～しながら、～すると【接助】
 コロ kor 持つ【他】
 コロカ korka けれども【接助】
 コロカイ korkay けれども【接助】
 コンチ konci 帽子【名】
 サカヨカラ sakayokar けんかする【自】
 サク sak 夏【名】
 サク sak 欠く【他】
 サケ sake 酒【名】
 サツケ satke 乾かす【他】
 サツチェフ satcep 干し魚【名】
 サツテッ sattek やせる【自】
 サパ sapa 頭【名】
 サバカラ sapakar 髪を切る【自】
 サバハ sapaha 頭【名】(サパ sapa の所属形)
 サフ sap 下る【自】(サン san の複数形)
 サツケ sapke 味見する【他】
 サツテ sapte 出す【他】(サンケ sanke の複数形)
 サポ sapo 姉【名】
 サマ sama そば、傍ら【名】(サム sam の所属形)
 サム sam そば、傍ら【名】
 サロルンチカフ saroruncikap タンチョウヅル【名】
 サン san 下る【自】(サフ sap の単数形)
 サンケ sanke 出す【他】(サツテ sapte の単数形)
 シアツカ siapka 雄のシカ【名】
 シアマム siamam 米【名】
 シオイナ sioyna 尊い【自】
 シカリ sikari 円い【自】
 シキ siki 目【名】(シク sik の所属形)
 シキヒ sikihhi 目【名】(シク sik の所属形)
 シク sik 一杯である【自】
 シク sik 目【名】
 シケ sike 荷物【名】
 シケトク siketok 目の前【名】
 シケレペ sikerpe キハダの実【名】
 シコ siko 生まれる【自】
 シコッベツ sikotpet 千歳川(地名)【名】
 シコポフ sikopop 錆びる【自】
 シサム sisam 和人【名】
 シッカシマ sikkasma 見守る【他】
 シットウライヌ sitturaynu 道に迷う【自】
 シットキヒ sittokihhi ひじ【名】(シットク sittok の所属形)
 シットク sittok ひじ【名】
 シト sito 団子【名】
 シトゥリ situri 伸びる【自】
 シトマ sitoma 恐れる【他】
 シニ sini 休む【自】
 シヌイエ sinuye 入墨をする【自】

シヌマ *sinuma* 彼、彼女、自分【代名】
 シヌラッパ *sinurappa* 先祖供養をする【自】
 シネ *sine* 一つの【連体】
 シネウェクル *sinewekur* 来客【名】
 シネベサン *sinepesan* 九つの【連体】
 シネンネ *sinenne* 一人で【副】
 シノ *sino* まことに【副】
 シノツ *sinot* 遊ぶ【自】
 シノツチャ *sinotca* (即興の) 歌【自】
 シノツチャキ *sinotcaki* 歌う【自】
 シベ *sipe* サケ【名】
 シボロ *siporo* まことに大きい【自】
 シラン *siran* (そのような) 様子である【完動】
 シリ *sir* (目に見える) 様子【名】
 シリ *siri* (目に見える) 様子【名】(シリ *sir* の所属形)
 シリキ *sirki* (そのような) 様子をしている【自】
 シリキ *sirki* 模様【名】
 シリクンネ *sirkunne* 夜になる【完動】
 シリセセク *sirsesek* 暑い【完動】
 シリパイカラ *sirpaykar* 春になる【完動】
 シリピリカ *sirpirka* 天気が良い【完動】
 シンキ *sinki* 疲れる【自】
 シントコ *sintoko* 行器【名】
 シンリッ *sinrit* 木の根、先祖【名】
 シンルシ *sinrus* コケ【名】
 ス *su* 鍋【名】
 スイ *suy* 回数【名】
 スイ *suy* 穴【名】
 スイ *suy* 再び、また【副】
 スイエ *suye* 揺らす【他】(スイパ *suypa* の単数形)
 スイパ *suypa* 揺らす【他】(スイエ *suye* の複数形)
 スウエ *suwe* 煮る【他】(スパ *supa* の単数形)
 スウオフ *suwop* 箱【名】
 スクフ *sukup* 成長する【自】
 スケ *suke* 料理する【自】
 スネ *sune* たいまつ【名】
 スパ *supa* 煮る【他】(スウエ *suwe* の複数形)
 スムタク *sumtak* 脂のかたまり【名】
 スワスワ *suwasuwa* スワスワ (不明)【名】
 スンク *sunku* エゾマツ【名】
 セ *se* 背負う【他】
 セイ *sey* 貝【名】
 セコロ *sekor* へと (引用)【副助】
 セセツカコロカムイ *sesekkakorkamuy* 温泉の神【名】
 セタ *seta* 犬【名】
 セトウル *setur* 背中【名】
 セトウル *seturu* 背中【名】(セトウル *setur* の所属形)
 セトウルフ *seturuhu* 背中【名】(セトウル *setur* の所属形)
 セレ *sere* 背負わせる【他】
 センピリ *sempir* 陰【名】
 ソ *so* へしようかな【終助】
 ソ *so* 滝【名】
 ソ *so* 平面【名】
 ソイ *soy* (家の) 外【名】
 ソイエンパ *soyenpa* 外に出る【自】(ソイネ *soyne* の複数形)
 ソイネ *soyne* 外に出る【自】(ソイエンパ *soyenpa* の単数形)
 ソモ *somo* (否定の表現)【副】
 ソンノ *sonno* 本当に【副】
 ソンパ *sompa* 蕎麦【名】
 ソンパヌ *sompanu* 三角である【自】
 タ *ta* へに、へで【格助】
 タ *ta* 掘る、汲む【他】
 タアヌカ *taanuka* この【連体】(タアン *taan* の複数形)
 タアン *taan* この【連体】(タアヌカ *taanuka* の単数形)
 タク *tak* かたまり【名】
 タク *tak* 招く【他】
 タクネノ *takneno* みじかく【副】
 タサ *tasa* お返しに【副】
 タサ *tasa* 交換する【他】(タシパ *taspa* の単数形)
 タシパ *taspa* 交換する【他】(タサ *tasa* の複数形)
 タヌ克蘭 *tanukuran* 今晚【名】
 タネ *tane* 今【副】
 タネポ *tanepo* 初めて【副】
 タッ *tap* へこそ【副助】
 タッスツ *tapsut* 肩【名】
 タッストウフ *tapsutuhu* 肩【名】(タッスツ *tapsut* の所属形)

形)

タマ *tama* 玉【名】

タラ *tar* 背負い縄【名】

タン *tan* この【連体】

タンタネ *tantane* だんだんに【副】

タント *tanto* 今日【副】

タンパク *tanpaku* タバコ【名】

タンベ *tanpe* これ【名】

チ *ci* = (聞き手を含まない) 私たち【人接】(他動詞につく形)

チアウンケ *ciawunke* 入る【自】

チエカントコトロスイエ *cekantokotorsuye* 頭が天に届く【自】

チエフ *cep* 魚【名】

チエフカフ *cepkap* 魚の皮【名】

チカッポ *cikappo* 小鳥【名】

チカフ *cikap* 鳥【名】

チカフノク *cikapnok* 鳥の卵【名】

チキ *ciki* ～すると【接助】

チキリ *cikir* 足【名】

チキリ *cikiri* 足【名】(チキリ *cikir* の所属形)

チクエ *cikue* 机【名】

チクニ *cikuni* 木【名】

チシ *cis* 泣く【自】

チシポ *cispo* 針入れ【名】

チセ *cise* 家【名】

チフ *cip* 舟【名】

チボ *cipo* 舟を漕ぐ【自】

チボロシト *ciporsito* 筋子をまぶした団子【名】

チマチエフ *cimacep* 焼き魚【名】

チャ *ca* 刈る【他】

チャペ *cape* 猫【名】

チャラ *car* 口【名】

チャラケ *carke* 鳴る【自】

チャロ *caro* 口【名】(チャラ *car* の所属形)

チュフ *cup* 月【名】

チョコ *coka* (聞き手を含まない) 私たち【代名】

チヨリ *cori* 櫓【名】

チロシ *cirosi* 花矢【名】

チンケウ *cinkew* 根【名】

テ *te* ここ【名】

テイネシ *teynesi* 赤子【名】

テエタ *teeta* 昔【副】

テケ *tek* 手【名】

テケ *teke* 手【名】(テケ *tek* の所属形)

テタ *teta* ここに【副】

テッコトロ *tekkotor* 手のひら【名】

テッコトロ *tekkotoro* 手のひら【名】(テッコトロ *tekkotor* の所属形)

テッコトロホ *tekkotoroho* 手のひら【名】(テッコトロ *tekkotor* の所属形)

テレ *tere* 待つ【他】

ト *to* 湖【名】

ト *to* 日【名】

トアニ *toani* あそこ【名】

トアヌカ *toanuka* あの【連体】(トアン *toan* の複数形)

トアン *toan* あの【連体】(トアヌカ *toanuka* の単数形)

トイ *toy* 土【名】

トイタ *toyta* 畑を耕す【自】

トゥ *tu* 二つの【連体】

トゥアン *tuan* あの【連体】

トゥイエ *tuye* 切る【他】(トゥイパ *tuypa* の単数形)

トゥイパ *tuypa* 切る【他】(トゥイエ *tuye* の複数形)

トゥイマ *tuyma* 遠い【自】

トゥイマノ *tuymano* 遠く【副】

トゥキ *tuki* 杯【名】

トゥシペツ *tuspets* 利別川(地名)【名】

トゥッコ *tutko* 二日【名】

トゥトゥツ *tutut* ツツドリ【名】

トゥナシ *tunas* 早い【自】

トゥナシノ *tunasno* 早く【副】

トゥナハカイ *tunahkay* トナカイ【名】

トゥヌニタラ *tununitara* 響く【自】

トゥフ *tu p* 二つ、二個【名】

トゥベサン *tupesans* 八つの【連体】

トゥベフ *tupep* わな【名】

トゥマシヌ *tumasnu* 体力がある【自】

トゥム *tum* 中【名】

トウラ tura 連れる、伴う【他】
 トウラシ turasi ～に沿って【格助】
 トウラノ turano ～とともに【副】
 トウリ turi 伸ばす【他】
 トウレテ turep ウバユリ【名】
 トウン tun 二人【名】
 トオ too ずっと【副】
 トオン toon あの【連体】
 トキカラ tokikar ワカサギ【名】
 トクイエ tokuye 友人【名】
 トクセ tokse 脈を打つ【自】
 トット tutto 母【名】
 トノシキ tonoski 昼【名】
 トノト tonoto 酒【名】
 トッセ topse つばを吐く【自】
 トベン topen 甘い【自】
 トベンペ topenpe 甘いもの【名】
 トム tom 中【名】
 トラサンベ torasampe マリモ【名】
 トンチカマ toncikama 敷居【名】
 ナ na ～だよ【終助】
 ナ na まだ【副】
 ナニ nani すぐに【副】
 ナヌフ nanuhu 顔【名】(ナン nan の所属形)
 ナム nam 冷たい【自】
 ナン nan 顔【名】
 ナンコロ nankor ～だろう【助動】
 ニカオツ nikaop 木の実【名】
 ニサッタ nisatta 明日【副】
 ニサツノ nisapno 急に【副】
 ニシ nis 空【名】
 ニシパ nispa ニシパ(立派な人、裕福な人)【名】
 ニス nisu 白【名】
 ニスク nisuk 頼る【他】
 ニタイ nitay 林【名】
 ニテク nitek 木の枝【名】
 ニヌム ninum クルミの実【名】
 ニマキ nimaki 歯【名】(ニマク nimak の所属形)
 ニマク nimak 歯【名】
 ニン nin 消える【自】
 ヌ nu 聞く【他】
 ヌイエ nuye 彫る、書く【他】
 ヌイナ nuyna 隠す【他】
 ヌカラ nukar 見る【他】
 ヌカレ nukare 見させる【他】
 ヌサ nusa 幣柵【名】
 ヌソ nuso 櫓【名】
 ヌヌケ nunuke 大事にする【他】
 ヌプリ nupuri 山【名】
 ヌマン numan 昨日【副】
 ヌム num 粒【名】
 ヌレ nure 聞かせる【他】
 ヌンパ numpa 絞る【他】
 ネ ne ～である【他動】
 ネ ne ～として、～に【格助】
 ネ ne その【連体】
 ネ ne 何の【疑問】
 ネア nea その【連体】(ネロク nerok の単数形)
 ネイ ney どこ、いつ【疑問】
 ネクス nekusu なぜ【疑問】
 ネコン nekon どう【疑問】
 ネノ neno ～のように【副】
 ネテ nep 何【疑問】
 ネツキ nepki 働く【自】
 ネヤッカ neyakka ～でも【副助】
 ネロク nerok その【連体】(ネア nea の複数形)
 ネワ newa ～と【副助】
 ネン nen 誰【疑問】
 ノ no ～して【接助】
 ノイネ noyne ～するように【接助】
 ノカ noka 形【名】
 ノク nok 卵【名】
 ノシキ noski 真中【名】
 ノシケ noske 真中【名】
 ノシパ nospa 追う【他】
 ノタカミヒ notakamihi 頬【名】(ノタカム notakam の所属形)
 ノタカム notakam 頬【名】

ノチウ *nociw* 星【名】
ノミ *nomi* 祈る【他】
ノンノ *nonno* 花【名】
ノンノムイ *nonnomuy* 花束【名】
パ *pa* 見つける【他】
パ *pa* 上手【名】
パ *pa* 年【名】
パイエ *paye* 行く【自】(アラパ *arpa* の複数形)
パイエカイ *payekay* 歩き回る【自】(オマナン *omanan* の複数形)
ハウ *haw* 声【名】
ハウエ *hawe* 声【名】(ハウ *haw* の所属形)
ハウエアシ *haweas* 声を出す【自】
ハウエアン *hawean* 言う【自】
パク *pak* ～まで【副】
パクノ *pakno* ～まで【副】
パケ *pake* 頭【名】
パシクル *paskur* カラス【名】
ハチャム *hacam* エゾライチヨウ【名】
ハチレ *hacire* 落とす【他】
パテック *patek* ～ばかり【副助】
パナンペ *pananpe* パナンペ(川下の者)【名】
ハニ *hani* ～しなさい【終助】
ハップ *hap* ごちそうさま(女性が用いる表現)【間投】
ハポ *hapo* 父親【名】
パラ *par* 口【名】
パラバラック *parapararak* 泣く【自】
パルンペ *parunpe* 舌【名】
パルンペヘ *parunpehe* 舌【名】(パルンペ *parunpe* の所属形)
パロ *paro* 口【名】(パラ *par* の所属形)
パロホ *paroho* 口【名】(パラ *par* の所属形)
ハンク *hanku* ヘソ【名】
ハンクチョッチャップ *hankucotcap* トンボ【名】
ヒ *hi* こと、とき、ところ【名】
ヒケ *hike* ～したところ【接助】
ピサク *pisakku* 柄杓【名】
ピスキ *piski* 数える【他】
ピシノ *pisno* ～ごとに【副】

ヒナク *hinak* どこ【疑問】
ヒネ *hine* ～して【接助】
ピパウク *pipauk* カワシンジュガイを採る【自】
ピリカ *pirka* 良い【自】
ピリカイマキ *pirkaimaki* 良い歯【名】
ピリカノ *pirkano* 良く【副】
ピリカハウエ *pirkahawe* 良い声【名】
ヒンナ *hinna* ごちそうさま【間投】
フ *hu* 生である【自】
フ *p* もの【名】
ブクサ *pukusa* ギョウジャニンニク【名】
フシコプリ *huskopuri* 昔の生活方法【名】
フタタウエ *hutatawe* (驚きの表現)【間投】
フチ *huci* おばあさん【名】
フナク *hunak* どこ【疑問】
フナラ *hunara* 探す【他】
フマシ *humas* 気配がする【完動】
フミ *humi* 音、気配【名】(フム *hum* の所属形)
フム *hum* 音、気配【名】
フライエ *huraye* 洗う【他】(フライバ *huraypa* の単数形)
フライバ *huraypa* 洗う【他】(フライエ *huraye* の複数形)
フレ *hure* 赤い【自】
フレコソソソテ *hurekosonte* 赤い着物【名】
フンナ *hunna* 誰【疑問】
フンバ *humpa* 刻む【他】
フンペ *humpe* クジラ【名】
ヘ *he* ～か【終助】
ペ *pe* もの【名】
ペウレ *pewre* 若い【自】
ベカ *peka* ～で、～に【格助】
ヘカチ *hekaci* 子供【名】
ヘカッタラ *hekkatar* 子供たち【名】
ベカンベ *pekampe* ヒシの実【名】
ヘコタ *hekota* ～の方へ【副】
ペコトベ *pekotope* 牛乳【名】
ペコロ *pekor* ～するかのよう【接助】
ヘセ *hese* 息をする【自】
ヘタク *hetak* さあ【間投】
ヘチラサ *hecirasa* 咲く、開く【自】(ヘチラシバ *heciraspa*

の単数形)

ヘチラシパ heciraspa 咲く、開く【自】(ヘチラサ hecirasa
の複数形)

ペツ pet 川【名】

ヘトゥク hetuku 生える【自】(hetukpaの単数形)

ヘトゥクパ hetukpa 生える【自】(hetukuの複数形)

ペナンペ penanpe ペナンペ(川上の者)【名】

ヘネ hene ~でも【副助】

ヘピラサ hepirasa 咲く、開く【自】

ヘペレ heper 小熊【名】

ヘペレセツ heperset 小熊の檻【名】

ヘマンタ hemanta 何【疑問】

ペライ peray 釣りをする【自】

ペライカラ peraykar 釣る【他】

ペレ pere 割る【他】(ペレパ perpaの単数形)

ペレパ perpa 割る【他】(ペレ pereの複数形)

ヘンパツ hempak いくつ【疑問】

ヘンバラ hembra いつ【疑問】

ホ ho はい【間投】

ポ po 子供【名】

ポイソン poyson 幼い子供【名】

ホイヌ hoynu テン【名】

ポウタラ poutar 子供たち【名】

ポウタリ poutari 子供たち【名】(ポウタラ poutarの所
属形)

ポカ poka ~だけでも【副助】

ホカナシミツ hokanasimip 上着【名】

ホカンパ hokanpa むずかしい【自】

ホク hok 買う【他】

ホク hoku 夫【名】

ボク pok 下【名】

ホクフ hokuhu 夫【名】(ホク hokuの所属形)

ホクレ hokure はやく【間投】

ホシ hos 脚絆【名】

ホシキ hoski 先である【自】

ホシキヌマン hoskinuman おととい【副】

ホシキノ hoskino 先に【副】

ホシッパ hosippa 戻る【自】(ホシピ hosipiの複数形)

ホシピ hosipi 戻る【自】(ホシッパ hosippaの単数形)

ホッパ hoppa 残す、去る【他】

ホトウイエカラ hotuyekar 呼ぶ【他】

ホニ honi 腹【名】(ホン honの所属形)

ホニヒ honihi 腹【名】(ホン honの所属形)

ポップ pop 沸く【自】

ホブニ hopuni 起きる【自】(ホブンパ hopunpaの単数形)

ホブンパ hopunpa 起きる【自】(ホブニ hopuniの複数形)

ポホ poho 子供【名】(ポ poの所属形)

ホユツパ hoyuppa 走る【自】(ホユブ hoyupuの複数形)

ホユブ hoyupu 走る【自】(ホユツパ hoyuppaの単数形)

ホリッパ horippa 踊る【自】(ホリピ horipiの複数形)

ホリピ horipi 踊る【自】(ホリッパ horippaの単数形)

ポロ poro 大きい【自】

ポロンノ poronno たくさん【副】

ホン hon 腹【名】

ポン pon 小さい【自】

ポントノ pontono 若殿【名】

ボンノ ponno 少し【副】

マ ma 泳ぐ【自】

ママ ma 焼く【他】

マカナツ makanak どう【疑問】

マカヨ makayo フキノトウ【名】

マキリ makiri 小刀【名】

マタ mata 冬【名】

マチヤ maciya 町【名】

マチリベ macirpe (兄からみた)妹【名】

マッカチ matkaci 女の子【名】

ミ mi 着る【他】

ミケ mike 光る【自】

ミナ mina 笑う【自】

ミヤンケ miyanke 土産【名】

ミレ mire 着させる【他】

ムックル mukkur 口琴【名】

ムンヌウエ munnuwe ごみを掃く【自】

メアン mean 寒い【完動】

メシパ mespa 剥ぐ【他】(メス mesuの複数形)

メス mesu 剥ぐ【他】(メシパの単数形)

メノコ menoko 女性【名】

メライケ merayke 寒い【自】

モイモイエ moymoye 動かす【他】
 モイレ moyre 遅い【自】
 モコロ mokor 眠る【自】
 モシマ mosma 別の【連体】
 モシリ mosir 国土【名】
 モナサツ monasap 忙しい【自】
 モマンベ momampe 雌のシカ【名】
 モム mom 流れる【自】
 モユク moyuk タヌキ【名】
 モンライケ monrayke 仕事をする【自】
 ヤ ya ～か【終助】
 ヤ ya 陸【名】
 ヤイカタ yaykata 自分で【副】
 ヤイカタヌ yaykatanu かしこまる【自】
 ヤイキマテッカ yaykimatekka あわてる【自】
 ヤイトウパレ yaytupare 気をつける【自】
 ヤイトウパレノ yaytupareno 気をつけて【副】
 ヤイヌ yaynu 考える【自】
 ヤイレンカ yayrenka 喜ぶ【自】
 ヤカ yaka 指差す【他】
 ヤク yak ～すると【接助】
 ヤクネ yakne ～すると【接助】
 ヤクン yakun ～したら【接助】
 ヤケ yake 岸【名】
 ヤッカ yakka ～しても【接助】
 ヤトウボキ yatupoki 脇の下【名】(ヤトウボク yatupok
 の所属形)
 ヤトウボク yatupok 脇の下【名】
 ヤッ yap 上陸する【自】(ヤン yan の複数形)
 ヤッテ yapte 上げる【他】(ヤンケ yanke の複数形)
 ヤヨモンヌレ yayomonnure 自分をほめる【自】
 ヤラチヤ yarcip 樹皮の舟【名】
 ヤラボキヒ yarpokihhi 脇、胸の横【名】(ヤラボク yarpok
 の所属形)
 ヤラボク yarpok 脇、胸の横【名】
 ヤン yan ～しなさい【終助】
 ヤン yan 上陸する【自】(ヤッ yap の単数形)
 ヤンケ yanke 上げる【他】(ヤッテ yapte の単数形)
 ユカラ yukar 英雄叙事詩【名】
 ユカラクル yukarkur 英雄叙事詩の語り手【名】
 ユク yuk シカ【名】
 ユツカム yukkam シカの肉【名】
 ユピ yupi 兄【名】(ユブ yup の所属形)
 ユブ yup 兄【名】
 ユツケ yupke 激しい【自】
 ユツテク yuptek よく働く【自】
 ユポ yupo 兄【名】
 ラ ra 低いところ【名】
 ライ ray 死ぬ【自】
 ライケ rayke 殺す【他】(ロンヌ ronnu の単数形)
 ラウラウ rawraw コウライテンナンショウ【名】
 ラタンケツ rataskep 山菜、和え物料理【名】
 ラッチタラ ratcitara ゆっくりと【副】
 ラッチタラノ ratcitarano ゆっくりと【副】
 ラッ rap 下る【自】(ラン ran の複数形)
 ラッテ rapte 下ろす【他】(ランケ ranke の複数形)
 ラボク rapok 間【名】
 ラムイエ ramuye ねぎらう【他】
 ラム ram 心【名】
 ラム ramu 思う【他】
 ラム ramu 心【名】(ラム ram の所属形)
 ラムトウイ ramutuy 驚く【自】
 ラヨチ rayoci 虹【名】
 ララ rar 眉【名】
 ラライパ raraypa なでる【他】
 ララバ rarapa なでる【他】
 ラル raru 眉【名】(ララ rar の所属形)
 ラルフ raruhu 眉【名】(ララ rar の所属形)
 ラン ran 下る【自】(ラッ rap の単数形)
 ランケ ranke 下ろす【他】(ラッテ rapte の単数形)
 ランマ ramma いつも【副】
 リキブ rikip 上る【自】(リキン rikin の複数形)
 リキン rikin 上る【自】(リキブ rikip の単数形)
 リク rik 高いところ【名】
 リムセ rimse 踊る【自】
 ル ru (～する) こと【名】
 ル ru 道【名】
 ルウエ ruwe (～する) こと【名】(ル ru の所属形)

ルウンペ *ruunpe* ルウンペ【木綿の着物】
ルスイ *rusuy* ～したい【助動】
ルプシ *rupus* 凍る【自】
ルヤンペ *ruyanpe* 嵐【名】
ルル *rir* おつゆ【名】
レ *re* 三つの【連体】
レ *re* 名前【名】
レウ *rew* 止まる【自】
レキ *reki* ひげ【名】(レク *rek* の所属形)
レク *rek* ひげ【名】
レクチヒ *rekucihi* 喉【名】(レクツ *rekut* の所属形)
レクツ *rekut* 喉【名】
レクテ *rekte* 鳴らす【他】
レクトウンペ *rekutunpe* 首飾り【名】
レシバ *respa* 育てる【他】(レス *resu* の複数形)
レス *resu* 育てる【他】(レシバ *respa* の単数形)
レタラ *retar* 白い【自】
レフ *rep* 三つ、三個【名】
レブン *repun* 沖にある、沖にいる【自】
レブンカムイ *repunkamuy* シャチ(沖の神)【名】
レラ *re* 風【名】
レレコ *rerko* 三日【名】
レン *ren* 沈む【自】
ロ *ro* ～しよう【終助】
ロク *rok* ～した【助動】(ア *a* の単数形)
ロク *rok* 座る【自】(ア *a* の単数形)
ロシキ *roski* 立つ【自】(アシ *as* の複数形)
ロシキ *roski* 立てる【他】(アシ *asi* の複数形)
ロンヌ *ronnu* 殺す【他】(ライケ *rayke* の複数形)
ワ *wa* ～から【格助】
ワ *wa* ～して【接助】
ワ *wa* ～だよ【終助】
ワッカ *wakka* 水【名】
ワッカタ *wakkata* 水を汲む【自】
ワノ *wano* ～から【格助】
ワン *wan* 十の【連体】
ワンバ *wanpa* 十年【名】
ワンパハカ *wanpahka* 手袋【名】

中級アイヌ語 一千歳一

発行年月 2011年3月

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7

TEL (011) 271-4171 FAX (011) 271-4181

URL <http://www.frpac.or.jp/> E-mail: ainu@frpac.or.jp



財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構